

# **くものいと No. 33**

**KUMO NO ITO**

**March 27, 2003**

**関西クモ研究会**

くものいと

No. 33, Mar. 2002

クモ撮影あれこれ 緒方清人 1

実体顕微鏡とデジタルカメラでクモを「お手軽に」撮る 加村隆英 5

昨年姫路で見つけたキジロオヒキグモについて 船曳和代 8

フィールド紹介：大峰山系の和佐又山（奈良県吉野郡上北山村西原） 西川喜朗 9

同定指南：ワシグモ科 Gnaphosidae（その6） 加村隆英 10

信貴山付近のクモ類目録 関根幹夫 15

滋賀県天神川のクモ 船曳和代・榎元ともこ 21

採集散策日記 ～奈良県大和高田市（神社編）～ 赤松史憲 24

各地で採集したクモ 吉田 真 35

関西クモ研究会採集会報告：京都府八幡市 石清水八幡宮周辺（2002年9月22日）

赤松史憲 40

本の中に見つけた蜘蛛, くも, クモ 船曳和代 44

吉田哉さんが「日本産ヒメグモ科総説」を出版！ 46

関西クモ研究会 2002年度例会の記録 47

会計報告 49

藤井靖浩さんを悼む 吉田 真 53

お詫びと訂正 55

## 特集 クモを撮る

他人が撮ったクモの写真を見て、うらやましいと思ったことはありませんか？もっとうまくなりたいたったことはありませんか？うまく撮るには、それなりのノウハウがあるはずです。ここでは、お二人の方にうまく撮る秘密を教えてください。

### クモ撮影あれこれ

緒方清人

クモを本格的に撮影しはじめたのは、1970 年ごろからだ記憶しています。たしか、最初に撮影したのはスズグモだったような気がします。50mm マクロレンズでストロボもなしで撮影しました。結果はピントもあまく、悲惨な結果でした。その後、試行錯誤を繰り返しながら現在に至っています。

今、クモの撮影に使用しているカメラが、ベストとは思っていません。機材を中心に失敗談を交えながら、話を進めたいとおもいます。

#### 1. カメラ編

被写体の小さなクモを撮影するとなると、やはり一眼レフに頼らざるをえません。幸い、日本は光学機械の世界トップレベルですから、多くのカメラメーカーから好みに合った機種を選ぶことができます。

当初、ミノルタでしたが、アサヒペンタックス・キャノンと変更し、現在はニコンが主流になっています。ですから、話は当然ニコンを主体としたものになりますが、基本的には他社との大きな違いはありません。

コンパクトカメラにも「接写に強い」と、宣伝している機種が幾つかあるようですが、わたしは持っていません。手持ちのコニカビッグミニも最短撮影距離が 30cm(普通 60cm 前後)ほどですが、やはり豆粒ほどにしか写りません。最短撮影距離は最低でも 10cm ぐらいは欲しいところでしょう。もしあったとしても被写体に近づけば暗くなり、当然ストロボが自動発光します。結果は、被写体の一部に影ができるのではないかと、想像がつきます。その理由は、ストロボのところで述べます。

最近の一眼レフはオートフォーカス(以下 AF)が主流で、マニュアルフォーカス(以下 MF)を製造しているメーカーは2社ほどになりました。個人的にAF機はクモの撮影には不向きだと思っています。今でも、20 年以上前に購入したMF機が現役として活躍していますし、AF機はわざわざMFに切り替えて使用しています。

#### 2. レンズ編

当然、マクロレンズが主体となります。標準レンズにクローズアップレンズをフィルターのように何枚か重ねると、マクロレンズの代用にはなりますが無領域は効かなくなりま

すし、取り外しや取り付けに面倒です。また、ベローズにレンズを付けるとかなりの倍率になります。更に広角レンズを逆付けすると、5~20倍前後は可能です。しかし、野外での操作には三脚の必要性もあり、速写性にかけますので不向きです。

マクロレンズには50mm, 100mm, 200mm 前後のクラスがあり、それぞれ使い分けができます。オリンパス光学のマクロシステムは20mmから揃い、他社を圧倒していましたが、つい最近、一眼レフから撤退しました。もし、システムを揃えようと思えば中古を探すしかありません。私もオリンパスのボデーを持っているだけにとっても残念です。

MFレンズの多くは最短撮影距離が2分の1倍でしたが、最近のAFレンズは等倍まで可能となりました。御承知のとおり、被写体を実物大で撮影するとすると、中間リングを付けなければならず(無限がきかなくなる)、その取り外しがとても面倒でした。さらに、MFマクロレンズの多くは開放の明るさがF3.5とやや暗く、AFレンズではF2.5やF2.8と明るくなり、一段階早いシャッターを切ることができるようになりました。これは、等倍撮影と合わせて、実に嬉しい利点となりました。

しかし、AF機の最大の欠点は、被写体の小さなクモに瞬時にピントを合わせることができないのです。周囲に枝葉などの障害物が有れば最悪です。シャッターを半押しにし、ピントが合った瞬間にシャッターを切りたいのですが、必死でピントを合わせようとする、レンズのモーター音だけがうなっています。「どうして、合わせることができないのか!!」と、愚痴をこぼしたくなります。「便利は不便」とはこのことでしょう。

ですから、AF機の場合はボデーをMFに切り替え、AFレンズはMFに切り替えて使用するのがベストです。結局、クモの撮影にはMF機で、まったく問題なし、と言う事です。

### 3. ストロボ編

クモの撮影にとって、成功するかしないかはストロボ次第、と言っても過言ではないでしょう。マクロ専用のリングストロボを使用すれば、簡単に事は運びますがとても高価です。それと、個人的にクモの眼や腹部等にリング状の発光部が写るのがいやでした(今は気にしていない)。それで、普通のストロボでうまく写る方法はないものかと、思案しました。そうすればもっと安あがりやすむし、光も自然光に近いものになる。と考えたからです。

市販の多くのストロボは発光部が45度まで自由に曲げることができます。普段、45度に曲げた状態で使用しますが、マクロ撮影では、被写体が近くなるに従い、発光範囲から外れてしまいます。ですから、出来上がりの写真の一部に影ができてしまいます。では、その影ができないようにするにはどうすればいいのか。それには、ちょっとした工夫が必要です。

普通、日中での撮影の祭、太陽を背にして被写体にカメラを向けます。この、あたりまえとも言える動作に、ヒントが隠されています。要はレンズの先端部の斜め上から、太陽光のように被写体に光が当たればいいわけです。そこで、ストロボの角度を15度ぐらいにし、最初はストロボをホットシュに差し込まずに(差し込めば角度的にうまくいかない)X接点を使用しただけで、レンズとストロボを紐で縛って使用していました。出来上がりの写真は、想像していたとおりうまく写っていました。しかし、ストロボが不安定、且

つ、レンズのピント合わせもしにくく、当然、改善の余地がありました。

カメラ部品カタログにストロボとホットシュの間に、自由に回転する部品を見つけました。「これだ」と直感しました。部品名はナショナル PP-SU01A です(既に製造中止)。この部品のおかげでクモの撮影に集中することができました。今は、使用頻度が少なくなりましたが、時々重宝しています。入れ替わりに、1985 年ごろから、リングストロボ付きのメディカル用レンズが主流となっています。このレンズの利点は2倍まで撮影可能なことと、倍率をフィルムに写し込むことができます。欠点は高価でレンズが重たく、バッテリーケースも別なので野外ではかさばります。無理して使用している理由ただひとつ、2倍まで写せるので 5mm 以下の小さなクモまで、何とか写真にできることです。このレンズは数年前に製造中止になりましたが、中古市場にたまに出ます。また、マクロ用の左右に別れたストロボも使用しています。この形のストロボは気に入っています。AF機になり、どのメーカーもマクロ用ストロボは、左右に別れた形が一般的になりました。「あのリング後が嫌だ」と、ユーザーの声が多かったのではないのでしょうか。

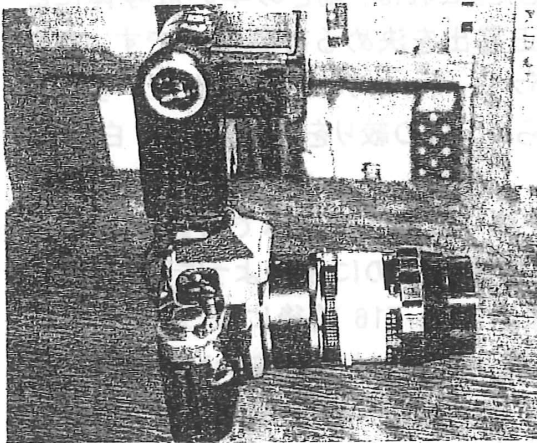


図1ストロボを普通に取付けた場合  
(被写体に影ができる)



図2ストロボの接点に取り付ける部品  
(360度自由に回転する)

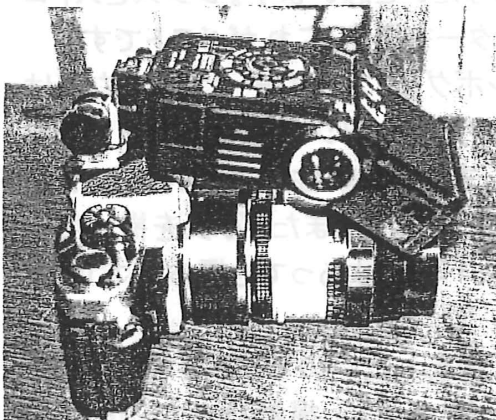


図3部品を取付けた場合  
(被写体に影ができない)

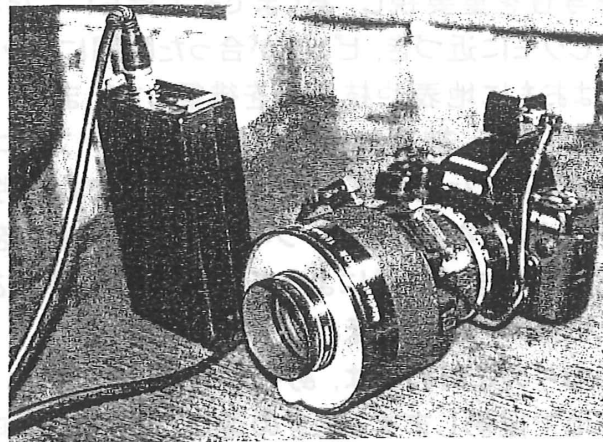


図4リングストロボ付きレンズ  
(重たいのが欠点)

#### 4. 実践編

クモは晴天でも日陰や物陰など、被写体としては悪条件下にいます。手ぶれの起きにくいシャッター速度を選ぶとなると、最低でもシャッター速度は125分の1秒より早く切りたいものです(手持ちの場合)。その場合、フィルム感度 ISO100 での適正露出は絞り F5.6 前後です。この絞りでは、体の一部にしかピントは合わず脚などはピンボケです。F11 前後に絞れば被写界深度はさらに深くなり、全体にシャープでピンボケは解消されます。そうするには、二つの方法があります。

まず一つ目は、フィルム感度 ISO400 か 800 を使用すれば、2絞り以上絞り込めますから、当然、体全体にピントが合います。しかし、フィルム感度の数字が多くなるほど粒子が荒くなる欠点があります。私は ISO50 か 100 のポジ以外は使いませんから、二つ目の、ストロボを使用することになります。

ストロボを使用する祭、シャッター速度をX接点に合わせます。MF 機はX接点が60分の1秒前後でしたが、AF 機は最高シャッター速度が4000分の1秒や8000分の1秒と高速になり、X接点も250分の1秒と早くなりました。これは、動きの早い被写体にとっては有利です。多くのストロボは距離によって適正露出を決める自動露光です。ですから、クモの体色によっては、出来上がりの写真がオーバーやアンダーになりがちです。当然、ストロボもAFをMFに切り替え、黒い体色ならレンズの絞りを開けますし、白い体色なら絞り込みます。

造網種の多くは枝葉・水面・建物等の空間に網を張ります。ストロボで撮影する場合、バックが空抜けだとクモ以外は真っ暗になり、昼間の撮影なのに夜のように写ります。これは、被写体が近距離なためにストロボの光が強過ぎて、F16 前後に絞っているからです。どうしても気になるようでしたら、バックの空に露出を合わせ、日中シンクロで撮影すれば解決します。でも、この条件はごく限られてきます。ストロボを使用せず、且つ、絞りをF11 前後にしたければ、シャッター速度を落とす以外に、15分の1秒前後のスローシャッターはあたりまえで、手持ちでは振れてしまいます。当然、三脚か一脚を使用しますが、セット中に枝葉などに触れただけでクモは敏感ですから逃げてしまいます。撮影は速写性を重要視し、あくまでも手持ちにこだわりたいと思います。レンズとストロボをセットしクモに近づき、ピントが合った瞬間にシャッターを押す。これがベストです。

徘徊種はおもに地表や枝葉等を徘徊しています。シボグモ・エビグモ・カニグモなどは比較的動きも鈍く、被写体としては楽です。一方、コモリグモ・ワシグモ・ハエトリグモなどは動きが早く、ファインダーに入れるだけでも苦労します。造網性のコガネグモ・アシナガグモ・ヒメグモなどと違い、フィルムの無駄遣いをしています。また、写真を撮った後にもよく逃げられます。種によっては標本の必要があり「写真はあっても標本がない」、そんな使えない写真が山ほどあります。

また、私なりのこだわりは、あくまでも自然の状態で撮影したいのです。ですから、基本的に現地で撮影します。動きの速いクモはなかなか静止せず、撮影はかなりの忍耐を要求されます。円網の撮影では白のスプレーはかけません、いや、できないのです(研究用は除く)。逆光や朝露で光る糸にファインダーを向けると最高です。どうか皆さんも挑戦してください。

## 実体顕微鏡とデジタルカメラでクモを「お手軽に」撮る

加村隆英

顕微鏡写真を本格的に撮ろうと思ったら、専用の顕微鏡と撮影装置をそろえなければなりません。しかし、実体顕微鏡とデジタルカメラがあれば、わりとお手軽にクモの標本を撮影することができます。それは、顕微鏡の接眼レンズの上にカメラを手持ちで載せて撮るという方法です。ただし、これはとても簡易な撮影ですので、そんなに立派な写真が撮れるわけではありません。スケッチをする代わりにちょっとしたメモ代わりに写真を撮るぐらいのものと考えてください。

また、これは試しにやってみたら案外うまくいったというもので、試行錯誤を繰り返して最良の方法を見つけたわけではありません。したがって、顕微鏡やカメラの機種によってはうまくいかない場合もあるでしょうし、また、もっと良い方法もあるはずです。その点はご了解ください。

私が使っている機材は、実体顕微鏡は Nikon SMZ-U、デジタルカメラは Nikon COOLPIX 990 です。この二つの機種の良い点は、顕微鏡は接眼レンズが比較的大きいこと（直径が約 22 mm）、カメラは逆にレンズが小さいこと（レンズキャップ部の内径が約 27 mm）です。カメラのレンズが大きいと顕微鏡の視野の周りの黒い部分が画面に写りやすいので、あまり良くありません。

撮影の手順は次のとおりです。まず、撮りたいものを画面に程良い大きさにおさめるために、カメラと顕微鏡のズームを調整する必要があります。これは、いろいろと試してみる以外ありません。カメラを顕微鏡の接眼レンズの上に載せて、ズームを変えながら、どのくらいの大きさに写るか、カメラのモニターで見てみましょう。

ここで少し迷うのは、拡大するために、カメラと顕微鏡、どちらのズームを使うほうが良いのかという点です。少しでも鮮明な写真を撮るためには、カメラのズームを小さくして（広角にして）、顕微鏡のズームで拡大するほうが良い結果が得られます。一方、写真の深度を少しでも深くするためには、顕微鏡のズームを抑えて、カメラのズームで拡大したほうが良いのです。とはいうものの、実際に撮影して比べてみると、いずれの場合も、その差はごくわずかなものですので、あまり神経質になる必要はないでしょう。（なお、カメラのズームがある程度以上に広角のときは、顕微鏡の視野の周りが黒く画面に写ります。）

さて、カメラと顕微鏡のズームを適当に決めたら、実際の撮影です。顕微鏡を覗いて、きちんとピントを合わせます。

カメラはあらかじめフラッシュが光らないように設定しておきます。また、ピント合わせ、絞り、シャッタースピードはすべてオートです。

顕微鏡の左右どちらかの接眼レンズの上にカメラを手持ちで載せます。同時に、顕微鏡の照明の光量を最大にします。

顕微鏡のピントがちゃんと合っていれば、多くの場合、カメラもオートフォーカスでピント

が合います (少なくとも私の使っているカメラでは大概うまくいきます)。カメラのモニターで構図を確認して、あとは、手ぶれしないように気をつけてシャッターを押すだけです。

シャッタースピードは、顕微鏡の倍率が低い場合は 1/125 秒で切れることもあります。倍率が高くなると 1/8 秒になってしまうこともあります。したがって、手ぶれにだけは気をつけなければなりません。もっとも、撮影対象が標本ならば、あせる必要はないので、そのつど撮影結果を確認して、納得のいくまで撮ればよいのです。デジタルカメラはこの点が便利です。

接眼レンズにマイクロメーターを入れれば、その目盛りを一緒に写し込むこともできます。もちろん、顕微鏡の倍率によって、マイクロメーター1目盛り当たりの実長が異なりますから、それは事前にきちんと確認しておかなければなりません。

全体に暗いものを撮影する場合 (例えば、黒っぽいクモの外雌器を拡大して撮影する場合) は、オート撮影では、露出過多になることもあります。あまり気にすることはありません。撮影後、画像の明るさやコントラストをコンピューターで処理すれば、見栄えのよいものに修正することができます。

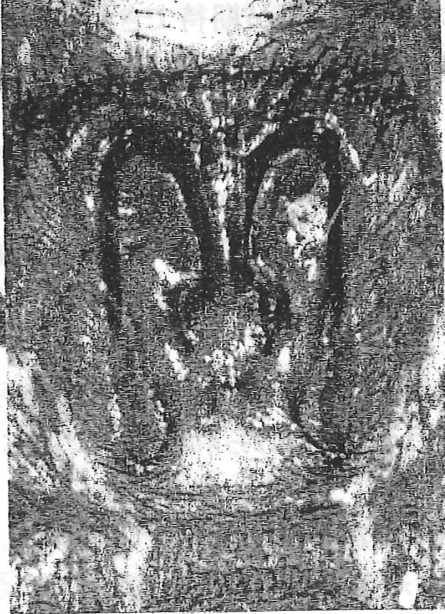
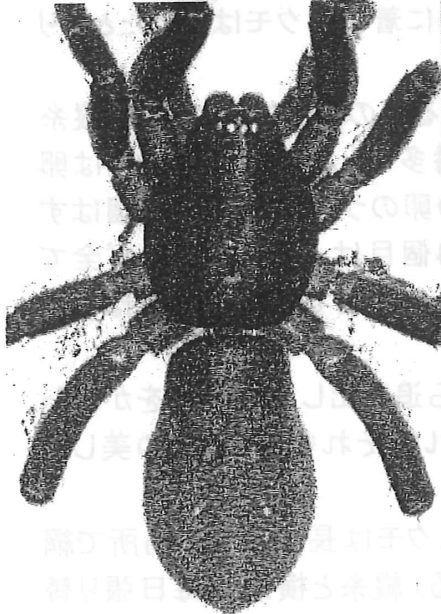
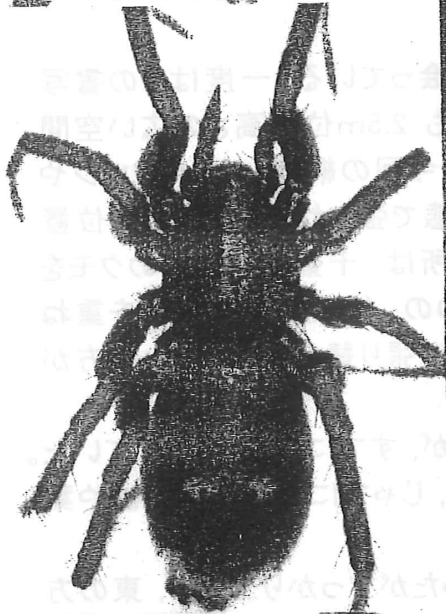
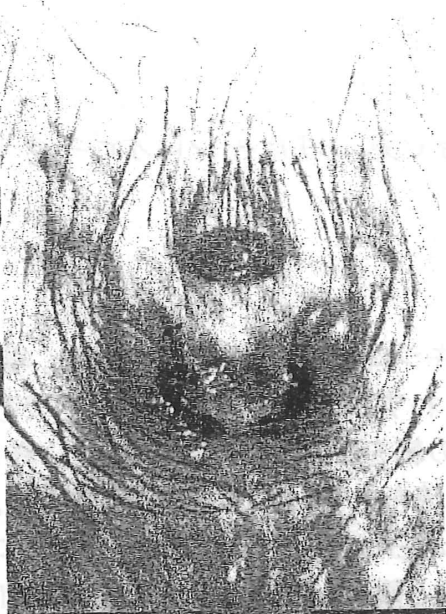
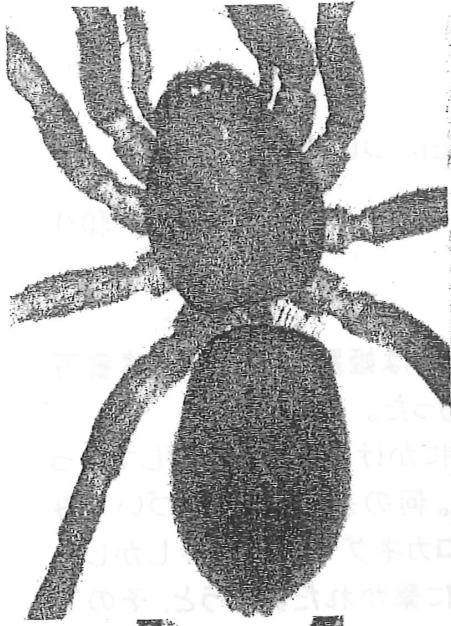
このようにして撮影される画像の深度は、当然のことですが、顕微鏡で観察するときの深度以上のものにはなりません。ですから、例えば雄の触肢のように厚みのあるものを拡大したときは、その全体をきれいに写すことはむずかしくなります。あるレベルにピントを合わせると、それより奥や手前はぼけてしまうからです。

従来の顕微鏡写真撮影装置のように、デジタルカメラを顕微鏡に取り付ける装置もあるようですが、そんな本格的なものは私は使ったことがありません。手持ち撮影でもそこそこの写真は撮れるという、そのお手軽さがこの方法の一番のメリットです。

また、この方法では、原則として、標本を撮影することを想定しています。しかし、生きたクモを撮ることもできなくはありません。とはいえ、やはり、これはちょっとむずかしいのです。それは、照明の問題です。ふつうのカメラで撮影する場合は、フラッシュが光るのは一瞬ですが、上に述べた方法では、照明を最大にしてからシャッターを切るまでに、ある程度の時間がかかりますので、その間にクモがまぶしさをいやがって動いてしまうことが多いのです。比較的動きの少ない造網性のクモなら、うまく撮影できることがあります。徘徊性のクモの場合は二酸化炭素で麻酔しないとまず無理だと思います。生きたクモを撮る場合は、やはり、ここで述べたような方法ではなくて、カメラとフラッシュを用いて接写するほうが良いでしょう。

最後に、上記の方法で撮影した写真のサンプルを掲げます。これはプリンターでカラー印刷した画像を白黒でコピーしたものです。[上段から、メキリグモ、フタホシテオノグモ、ヤマヨリメケムリグモ。それぞれ、左から、雌の全形、外雌器、雄の触肢 (腹面)。]





研究・観察報告

昨年姫路で見つけたキジロオヒキグモについて

船曳 和代

昨年10月5日、姫路でキジロオヒキグモを見つけた。場所は姫路市刀出、霊峰書写山へ刀出から登るコースを、わずか50mばかり登った所であった。

その日私は、マネキグモの網をとるつもりで出かけた。枝にかけられた糸を探してゆっくりと歩いていた。その目の端をチラリと太い糸が横切った。何の糸だろうと近づいてみるとほぼ水平に張られた円網らしきものが見えた。オオシロカネグモの網か？しかし時期が合わない、枠糸も太い、と観察している目に、鎖のように繋がれた卵のうと、その下にいるクモの姿が見えてきた。キジロオヒキグモである。

意外であった。私はこれまで二度、姫路でこのクモに出会っている。一度はこの書写山で、もう一度は白国の増位山で。その時の網は、いずれも2.5m位の高さの広い空間に、浮かぶように張られたほぼ垂直の網であった。ところが今回の網は、ミツバツツジやヒサカキの枝が交差する狭い空間に、ほぼ水平に近い状態で張られていた。網の位置も低く、私の胸の高さくらいである。しかし、奇しくもその場所は、十数年前にこのクモを見つけた場所とほぼ同じ所であった。目に触れなかったものの、クモはここで世代を重ねていたと思われる。網はあちこち破れており、紙に取るのには張り替えられたものの方が良いと判断し、明朝くることにした。

翌朝6日、8時半頃出かけた。網は張り替えられていたが、すでに二箇所破れていた。もう少し早く来る必要がある。その日は網を取り易いように、じゃまになる周囲の枝や葉を切り落としておいた。

翌朝7日は6時半頃起床した。明け方まで雨が降っていたがすっかり上がり、東の方から晴れてきた。こんな日はきれいな網が期待できる。現場に着くと、クモは思ったとおり完璧な網を完成させていた。

網の直径は約25cm、枠糸までいれると32~33cmはある形の整った網である。縦糸は18本、その1本に5個の卵のうを吊している。横糸は1番多いところで17本。網は卵のうを吊した側が少し持ち上がっているがほぼ水平。5個の卵のうのうち上から2個はすでに空であった。3個目は子グモがまだ若干残っていた。4個目はふ化していたが全ての子グモがまだ卵のうのなかにいるようだ。手で押すとわらわら出てくる。5個目はまだふ化していないようだ。

孵化している子グモを卵のうから全て出し、親グモも網から追い出し、ラッカーをかけた。キジロオヒキグモの網などそうそう見つけられるものではない。それも張りたての美しい網である。緊張してしまった。

網を紙に載せ枠糸を切りにかかるがなかなか切れない。クモは長い間同じ場所で網を張り続けていたのだろう、枠糸が異常に太く強くなっている。縦糸と横糸は毎日張り替

えながら、枠糸と卵のうを吊した糸はそのまま毎日補強していたらしい。ようやく1本また1本と切って紙に載せるが、切られた枠糸は紙に接着するより早く縮んでしまって、網は見るも無惨に変形してしまった。枠糸はかなりの緊張感をもって張られていたらしい。手もとには元の美しい網とはほど遠いものが残った。

もしかしてまた網を張ってくれるかもしれない、とクモを持ち帰り、庭木の間にはしたが、その日のうちに軒先に移動してしまった。そしてついに山にいる時のような美しい網完成することはなかった。とてもやせていたし、新しく張り替えたばかりの網をすっかり取られてしまったので、もう新しい網を張る力が残っていなかったのかもしれない。でもたくさんの子供を残しての大往生だったと思っている。そして今年は、このクモの子供に出会って、美しいキジロオヒキグモの網を是非とも手中に収めたいと思っている。

## フィールド紹介

### 大峰山系の和佐又山（奈良県吉野郡上北山村西原）

西川喜朗

近畿地方のブナ帯で昆虫採集のしやすい所はなかなかない。大峰山脈の北、大台ヶ原の西側にある和佐又山（わさまたやま）（標高 1,344m）は、大阪からはちょっと遠いが、採集の規制が厳しくなく、気楽に泊まれる山小屋があるので、昆虫屋さんや大峰ファンにはよく知られている山である。山小屋（和佐又ヒユッテ）までは車で行ける。

和佐又ヒユッテ（標高 1,150m）を利用して、ヒユッテから3キロほど西へ足をのばせば、約3時間で大峰山脈の稜線の大普賢岳（標高 1,780m）まで行ける。この間、ブナ、シャクナゲ、トウヒ、オオヤマレンゲなどの林が続く。ヒユッテの西側にはスキー場の草原があり、まわりの林も変化に富んでいる。女人禁制の山上ヶ岳や観光客の多い大台ヶ原では生物採集の規制が非常にきびしいが、和佐又山では昆虫採集に理解のある小屋の主人が、今のところ大目に見てくれている。真夏でも夜は涼しいし、頼めば山の中で灯火採集もできる。ぜひ、みんなで合宿に一度行ってみたい所である。

和佐又ヒユッテは、430人分の3段ベッドがあり、一泊二食付きで、6,500円、と料金もお手ごろである。予約人数に多少変更があっても融通がきく。食事もおいしく、鹿肉もよく出る。ジュースの自販機もビールもある。ほかに6人用のキャビンも数棟ある。トンネルから7キロほど南へ下れば、村営のいい温泉がある。この温泉で汗を流して帰ると壮快である。

#### 交通：

（車で）西名阪道「針」インターから南へ、国道369号、370号、吉野町からは国道169号線で、合計約70キロ、大台ヶ原への分岐点を過ぎて、長い新伯母峰トンネルを出たところがバス停「和佐又口」（標高800m）で、ここまで

約2時間。ここから、車だと15分もかからないで和佐又ヒュッテに着く。

(電車で)近鉄「阿部野橋」から吉野線「大和上市」下車,奈良交通バスで国道169号線を36キロ南へ,約1時間半,バス停「和佐又口」下車,ここから登り約2時間で和佐又ヒュッテに着く。

和佐又山ヒュッテの電話:07468-3-0027 (年中無休)

地図:2万5千分の1「弥山」(みせん)

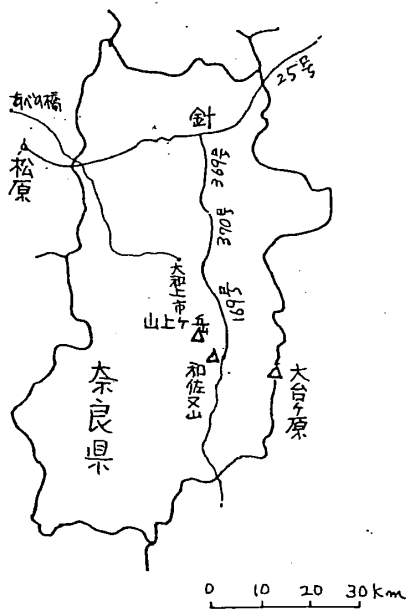


図1. 和佐又山概念図(1)

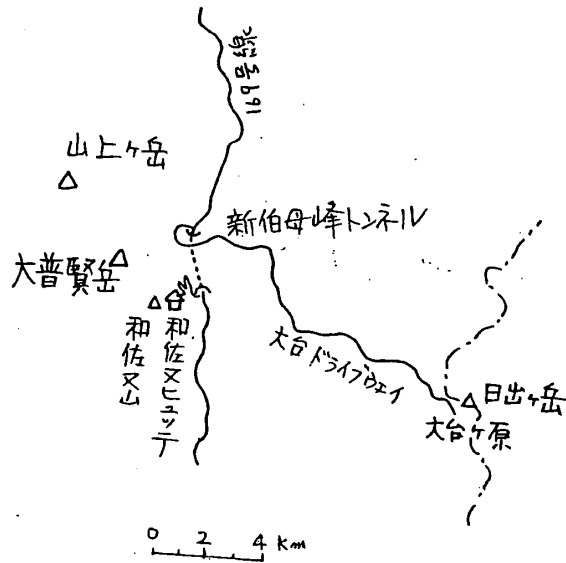


図2. 和佐又山概念図(2)

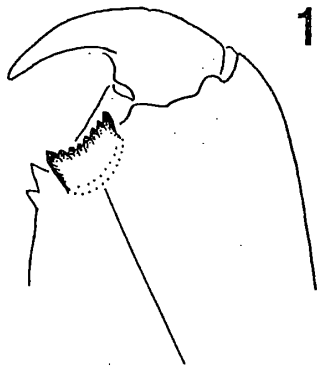
## 同定指南 VII

### ワシグモ科 Gnaphosidae (その6)

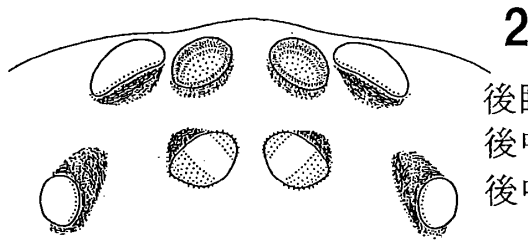
加村隆英

#### メキリグモ属 *Gnaphosa*

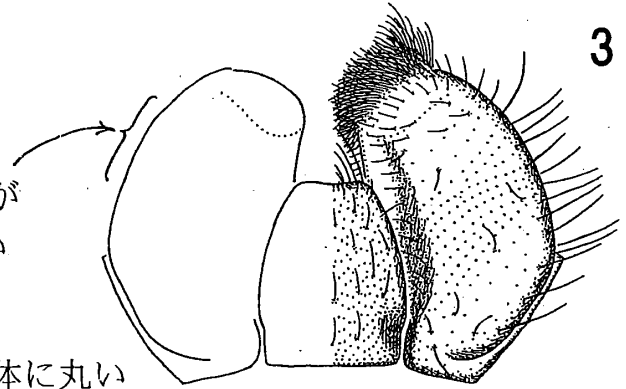
メキリグモ属の顕著な特徴は上顎の後牙堤に幅の広い突起があることです。その突起には鋸歯があり,独特の形態をしています(図1)。この特徴を確認できれば,メキリグモ属であることがすぐに分かるのですが,古くて硬くなった標本では観察しにくいことがあります。その場合は,次の2点も見てください。ひとつは後眼列の状態です。後眼列は明瞭に後曲しており,後中眼どうしは接近し,後中眼と後側眼は広く離れています(図2)。もうひとつは下顎の形態です。下顎が全体に丸いことが特徴です(図3)。さらに,外雌器の前部に,後方に向かう突起があることもこの属の特徴です。この突起は,やや軟質



鋸歯のある幅の広い突起



後眼列は後曲  
後中眼どうしは接近  
後中眼と後側眼は広く離れる

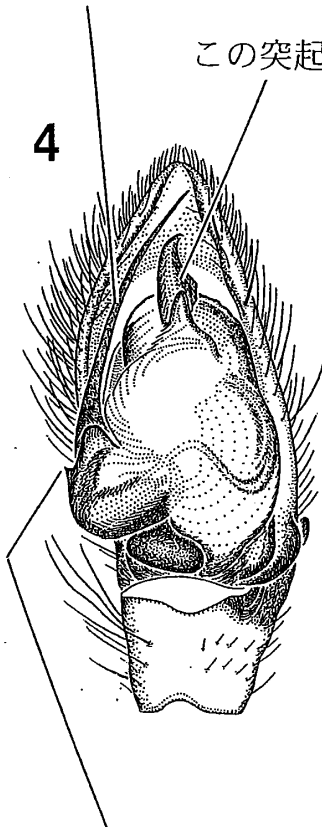


このあたりが  
まったく凹まない

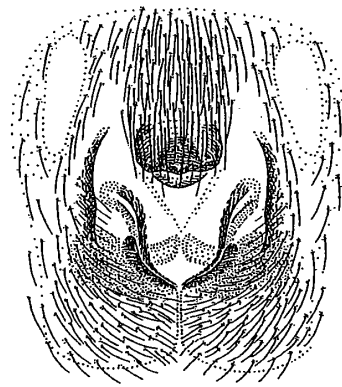
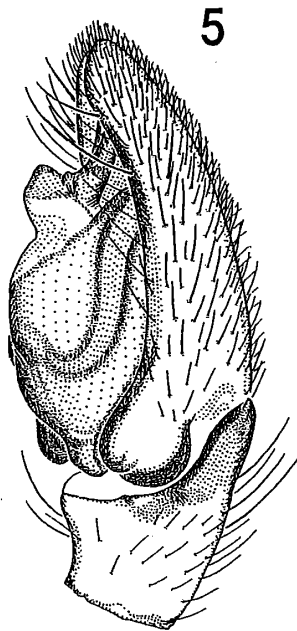
下顎が全体に丸い

栓子はやや長い

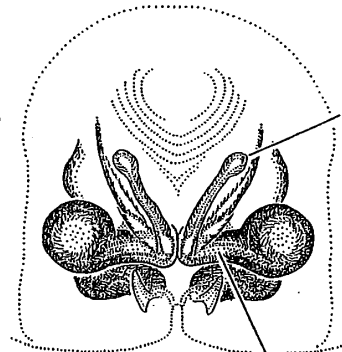
この突起はあまり大きくない



小さいが明瞭な突起



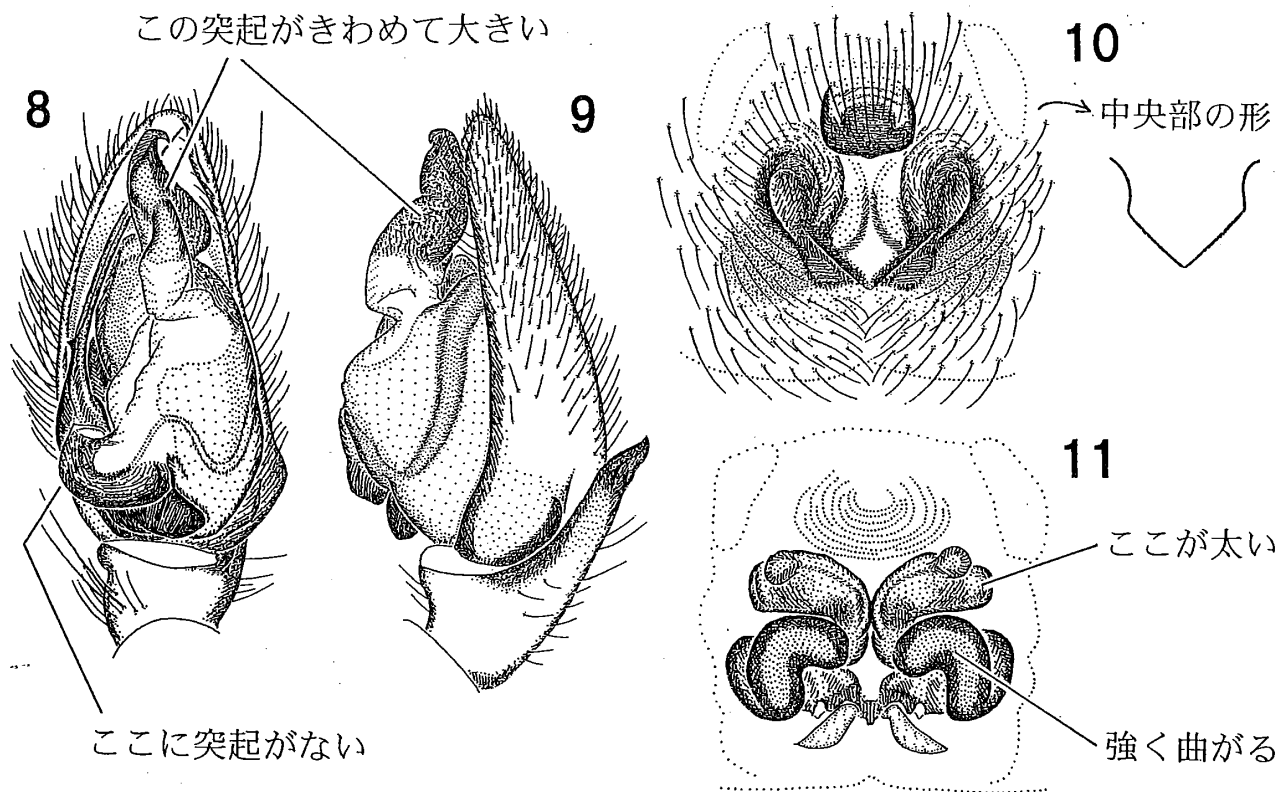
中央部の形



7  
細い管が斜め前方  
に伸びる

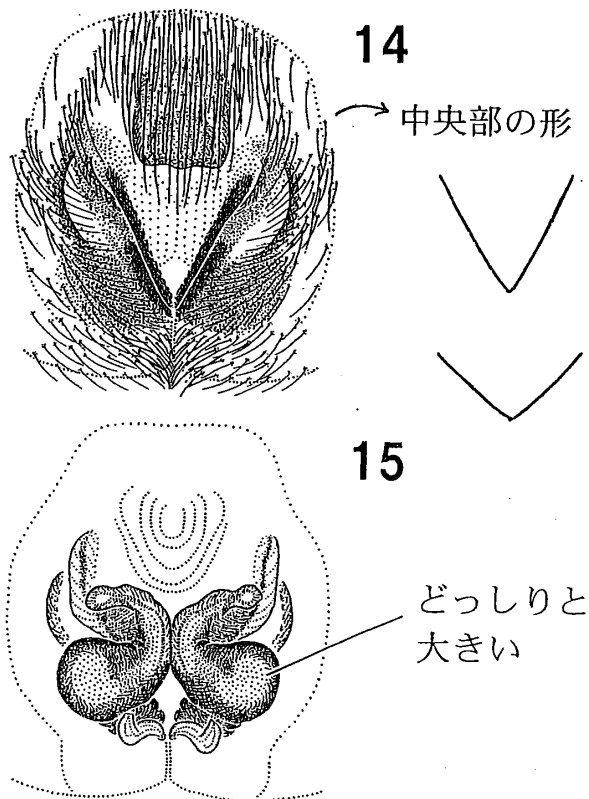
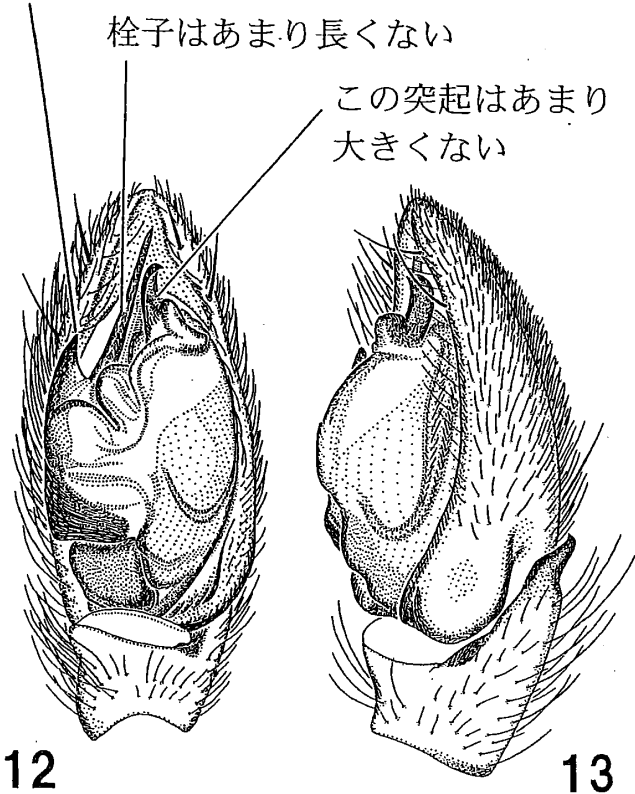
やや細い部分がある

メキリグモ



アカギメキリグモ

大きな突起  
先端が尖る



カワラメキリグモ

で、ときにその表面には蛇腹状のしわがあります。

体色は暗赤褐色ないし黒褐色で、腹部にはふつう目立った斑紋はありません（ただし、まれに明色の個体で、腹部背面に不明瞭な暗色の山型斑があるものがあります）。

日本からは6種が知られています。種の同定において、雄の場合は、触肢の形態をポイントを押さえて観察すれば、あまりむずかしくないと思いますが、雌では少し分かりにくいことがあります。それは、外雌器の形態が、別種でも比較的似ていて、同時に、同種でも個体による差異がけっこうあるからです。したがって、外部形態だけでは迷うことがありますので、内部生殖器も見たほうが確実です。

メキリグモ *Gnaphosa kompirensis* Bösenberg & Strand 1906 (図 4-7)

体長雌 6.0~11.2 mm, 雄 4.9~7.9 mm。北海道から南西諸島まで広く分布しています。国外では、ロシア、中国、韓国及びベトナムで記録があります。（なお、本種にきわめてよく似た未記載種が国内に存在しているようなのですが、詳細はまだ明らかではありません。）

アカギメキリグモ *Gnaphosa akagiensis* Hayashi 1994 (図 8-11)

体長雌 7.3~11.5 mm, 雄 5.8~8.6 mm。北海道と本州の中部地方以北に分布します。

カワラメキリグモ *Gnaphosa kamurai* Ovtsharenko, Platnick & Song 1992 (図 12-15)

体長雌 5.1~13.2 mm, 雄 5.0~10.4 mm。北海道、本州及び南西諸島（トカラ列島の宝島、沖縄島、久米島）に分布しています。南西諸島産の個体は小型（体長 7 mm 以下）で、北海道・本州のものと別種のようにも思われますが、雌の生殖器や雄の触肢の基本構造に差異が認められないので、私は同種として扱っています。

モリメキリグモ *Gnaphosa potanini* Simon 1895 (図 16-19)

体長雌 5.5~10.5 mm, 雄 6.6~9.0 mm。本州に分布します。国外では、ロシア、モンゴル、中国、韓国から記録されています。

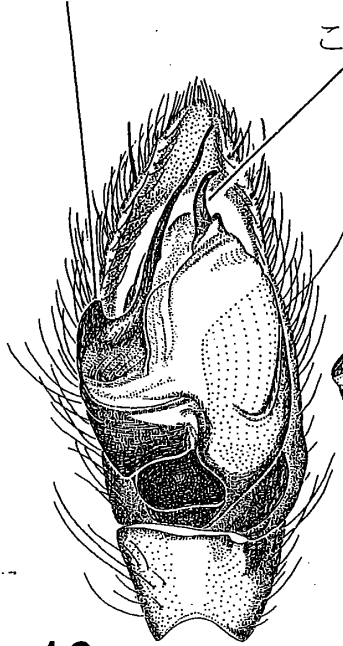
シベリアメキリグモ *Gnaphosa sticta* Kulczyński 1908 (図 20-21)

体長雌 6.5~8.2 mm, 雄 6.8~7.1 mm。旧北亜区に分布する種で、国内では北海道に生息しています。

アシハラメキリグモ *Gnaphosa primorica* Ovtsharenko, Platnick & Song 1992 (図 22)

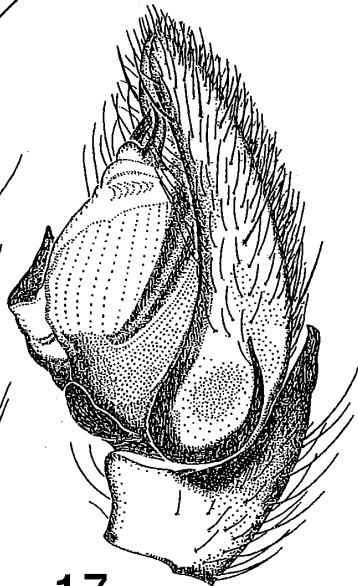
体長雄 5.2~8.1 mm。ロシアで記載された種で、北海道と本州（千葉県）で採集されています。現時点で雌は未知です。

大きな突起  
先端はやや丸い



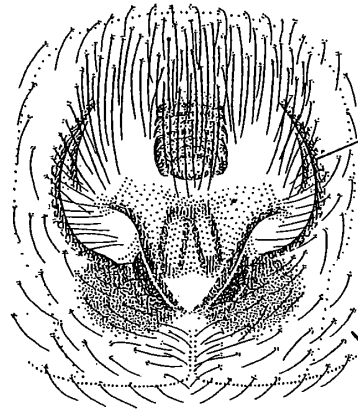
16

この突起は細い



17

モリメキリグモ



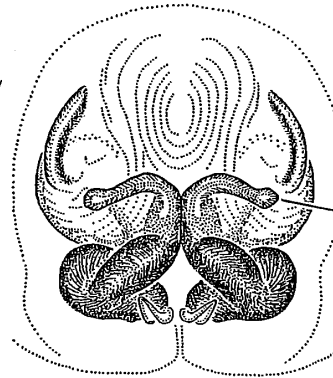
18

この部分の  
リッジが二重  
になっている  
ことが多い

中央部の形

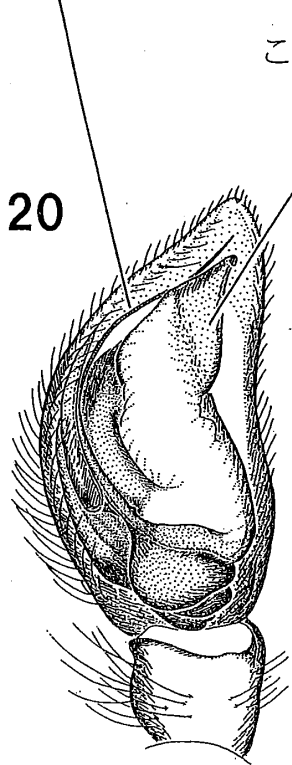


細い管が  
横に伸びる



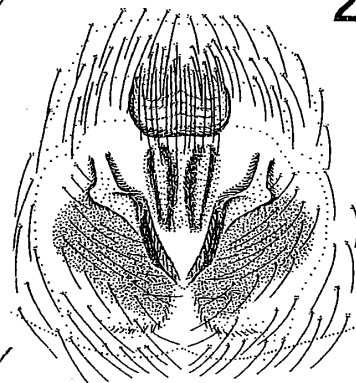
19

栓子はきわめて細く、長い



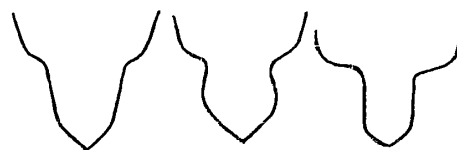
20

この突起が大きい



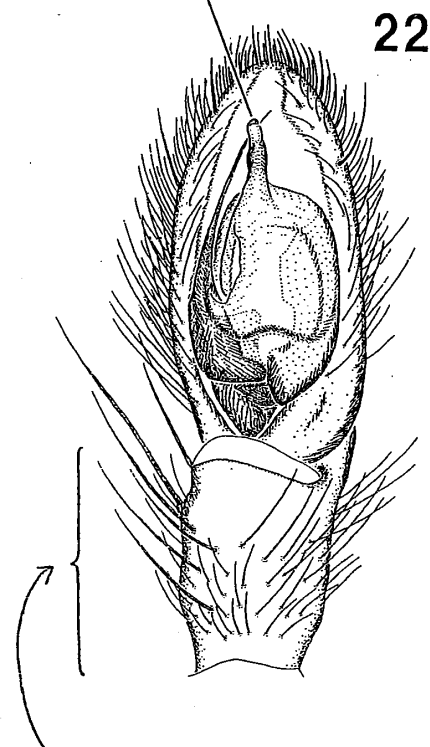
21

中央部の形



シベリアメキリグモ

この突起が細い



22

脛節が他種に比べて長い

アシハラメキリグモ



クモリスト

信貴山付近のクモ類目録

関根幹夫

A list of spiders in and around Mt. Shigi-san, in western Nara Prefecture

Mikio SEKINE

I checked the spiders in and around Mt. Shigi-san, in western Nara Prefecture from 1998 to 2002. Residential areas spread out at the foot of Mt. Shigi-san. Therefore, the black house spider, *Ixeuticus robustus*, the species that usually inhabits urban areas, is found there. The garden orb-web spider, *Argiope bruennichii* and *Neoscona adianta*, and the orb-weaving spider, genus *Cyrtarachne*, are also found there because a series of terraced rice paddies still remain there. And, it is a very interesting fact that a lot of the garden orb-web spiders, *Argiope boesenbergi*, inhabit the area near the rice paddies. *Araneus uyemurai*, *Hyptiotes affinis*, *Yaginumanis sexdentatus*, and scorpion-tailed spider, *Arachnura logio*, species usually inhabit mountainous regions, and are found in coppices in and around Mt. Shigi-san. Nature in and around Mt. Shigi-san is just like a patchwork; in other words, living things there inhabit all kinds of places.

大阪府と奈良県の県境に位置する生駒山系の信貴山付近の真正クモ類を、1998年から2002年にかけて調べた。調査範囲の市町村は、奈良県生駒郡三郷町の立野(標高270~50m)・南畑(標高360~260m)・城山台(標高160~70m)、同平群町の信貴山(標高430~250m)・信貴畑(標高350~200m)・久安寺(標高350~280m)と大阪府柏原市の本堂(標高280~200m)である。採集地名は字名を記したが、大部分は奈良県なので、大阪府下のものにだけ地名のあとに(大阪府)と記した。地域の生物相を調べてみると、思いのほかたくさんの生きものが生息していることに気づかされる。

信貴山付近は、宅地開発によりふもとは住宅地が広がっているので、クロガケジグモをはじめとし、都市化をうかがわせるクモが生息するが、棚田が残る里山自然の景観を示す地域でもあり、トリノフンダマシ類や水田に多いナガコガネグモ・ドヨウオニグモなどが見られ、チュウガタコガネグモが多く見られるのは興味深い。また、林床にネザサが生え、モチツツジ・ソヨゴが混じるアカマツ-常緑広葉樹林の丘陵部には、山地性のヤマオニグモ・オウギグモ・ムツバハエトリが生息し、キジロオヒキグモが生息するのも興味あることである。

このことは、信貴山付近の自然は、多様化した生息環境のパッチワークとして存在することを示唆するといえよう。

トタテグモ科 Ctenizidae

- 1 キシノウエトタゲモ *Latouchia typica* (KISHIDA, 1927) 1♀, 7-VIII-2000, 立野  
(目撃)

**ジグモ科 Atypidae**

- 1 ジグモ *Atypus karschi* DOENITZ, 1887 3♀, 4-III-2001, 信貴山

**ガケジグモ科 Amaurobiidae**

- 1 クロガケジグモ *Ixeuticus robustus* (L.KOCH, 1872) 1♀, 10-XI-1998, 城山台

**ハグモ科 Dictynidae**

- 1 ネコハグモ *Dictyna felis* BOES. et STR., 1906 1♀, 13-V-2001, 信貴畑

**ウズグモ科 Uloboridae**

- 1 オウギグモ *Hyptiotes affinis* BOES. et STR., 1906 1♀, 24-IX-2000, 立野;  
1♂, 29-IX-2002, 南畑

- 2 マネキグモ *Miagrammopes orientalis* BOES. et STR., 1906 1♀, 1-VII-1999, 立野

- 3 カタハリウズグモ *Octonoba sybotides* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 1-VII-1999, 南畑

- 4 ウズグモ *Octonoba varians* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 1-VII-1999, 本堂(大阪府)

**エンマグモ科 Segestriidae**

- 1 ミヤグモ *Ariadna lateralis* (KARSCH, 1881) 1♀, 1-VII-1999, 信貴山(目撃)

**ユウレイグモ科 Pholcidae**

- 1 ユウレイグモ *Pholcus cypycicolens* BOES. et STR., 1906 1♀, 27-X-2001, 立野

**ヒメグモ科 Theridiidae**

- 1 ツリガネヒメグモ *Achaeearanea anglithorax* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 15-VII-2001, 南畑(巢目撃)

- 2 ヒメグモ *Achaeearanea japonica* (BOES. et STR., 1960) 1♀, 6-VIII-2000, 城山台

- 3 カグヤヒメグモ *Achaeearanea culicivola* (BOES. et STR., 1906) 2♀, 8-VIII-2001, 立野

- 4 オオヒメグモ *Achaeearanea tepidariorum* (C.KOCH, 1841) 2♀, 24-VI-2001, 城山台

- 5 シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* (KARSCH, 1881) 1♀, 13-VIII-2000, 立野

- 6 トビジロイソウロウグモ *Argyrodes cylindratus* THORELL, 1889 1♀, 1-VII-1999, 立野

- 7 フタオイソウロウグモ *Argyrodes fur* BOES. et STR., 1906 1♀, 5-VIII-2001, 本堂(目撃)(大阪府)

- 8 チリイソウロウグモ *Argyrodes kumadai* CHIDA et TANIKAWA, 1999 1♀, 15-VII-2001, 城山台

- 9 オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* SIMON, 1888 1♀, 12-VIII-2000, 立野

- 10 ヒシガタグモ *Episinus affinis* BOES. et STR., 1906 1♀, 21-X-2001, 立野(目撃)

- 11 バラギヒメグモ *Takayus chikunii* (YAGINUMA, 1960) 1♀, 26-V-2002, 久安寺
- 12 ボカシミジグモ *Yaginumena castrata* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 18-V-2002, 立野

サラグモ科 Linyphiidae

- 1 クスミサラグモ *Linyphia fusca* (OI, 1960) 1♀, 13-V-2001, 信貴山
- 2 ヘリジロサラグモ *Linyphia oidedicata* (HELSDINGEN, 1969) 1♀, 5-IV-2002, 立野
- 3 アシナガサラグモ *Neriene longipedella* (BOES. et STR., 1906) 2♀, 1-VII-1999, 立野
- 4 シロブチサラグモ *Neriene radiata* (WALCKENAER, 1841) 1♀1♂, 19-VI-1999, 本堂(大阪府)
- 5 ユノハマサラグモ *Turinyphia yunohamensis* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 4-V-2001, 立野(目撃)

コガネグモ科 Araneidae

- 1 ハツリグモ *Acusilas coccineus* SIMON, 1895 1♀, 29-IV-2002, 信貴山
- 2 キジロオヒキグモ *Arachnura logio* YAGINUMA, 1956 1♀, 6-VI-2000, 立野
- 3 キザハシオニグモ *Araneus abscissus* (KARSCH, 1879) 1♀, 7-VIII-2000, 立野(目撃)
- 4 ヌサオニグモ *Araneus ejasmodi* BOES. et STR., 1906 1♀, 8-VIII-2001, 信貴畑(目撃)
- 5 ビジョオニグモ *Araneus mitificus* (SIMON, 1886) 1♀, 1-VII-1999, 信貴畑; 1♂, 14-X-2002, 南畑
- 6 アオオニグモ *Araneus pentagrammicus* (KARSCH, 1879) 1♀, 19-VI-1999, 信貴畑
- 7 ヤマオニグモ *Araneus uyemurai* YAGINUMA, 1960 1♀, 30-IX-2001, 信貴畑
- 8 オニグモ *Araneus ventricosus* (L.KOCH, 1878) 1♀, 1-VII-1999, 信貴山
- 9 ムツボシオニグモ *Araniella yaginumai* TANIKAWA, 1995 1♀, 19-V-2002, 立野
- 10 コガネグモ *Argiope amoena* L.KOCH, 1878 1♀, 1-VII-1999, 立野
- 11 チュウガタコガネグモ *Argiope boesenbergi* BOES. et STR., 1906 1♀, 19-VI-1999, 信貴畑
- 12 ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* (SCOPOLI, 1772) 1♀, 19-VIII-2000, 久安寺
- 13 コガタコガネグモ *Argiope minuta* KARSCH, 1879 1♀, 23-VII-2001, 立野
- 14 ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* BOES. et STR., 1906 1♀, 15-IX-1998, 立野
- 15 ヤマゴミグモ *Cyclosa monticola* BOES. et STR., 1906 1♀, 21-X-2001, 立野
- 16 ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* KARSCH, 1879 1♀, 15-IX-1998, 立野
- 17 シマゴミグモ *Cyclosa omonaga* TANIKAWA, 1992 1♀, 8-VIII-1998, 城山台
- 18 ヨツデゴミグモ *Cyclosa sedeculata* KARSCH, 1879 1♀, 4-V-2001, 立野
- 19 トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 15-IX-1999, 信貴畑
- 20 オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inaequalis* THORELL, 1895 1♀, 8-VIII-2001, 信

貴畑

- 21 シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne nagasakiensis* STRAND, 1916 1♀, 21-VII-2000, 信貴畑
- 22 スズミグモ *Cyrtophora moluccensis* (DOLESCHALL, 1857) 1♀, 8-VIII-2000, 立野
- 23 カラフトオニグモ *Eriophora sachalinensis* (S.SAITO, 1934) 1♀, 19-VI-1999, 信貴畑 (目撃)
- 24 サガオニグモ *Eriophora sagana* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 5-V-2002, 信貴畑
- 25 ドヨウオニグモ *Neoscona adianta* (WALCKENAER, 1802) 1♀, 23-IX-2002, 久安寺
- 26 ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellottei* (SIMON, 1895) 2♀, 30-VII-1999, 南畑
- 27 イエオニグモ *Neoscona nautica* (L. KOCH, 1875) 1♀, 22-IX-2002, 信貴山
- 28 コゲチャオニグモ *Neoscona punctigera* (DOLESCHALL, 1857) 1♀, 15-VIII-2001, 南畑
- 29 ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (KARSCH, 1879) 2♀1♂, 24-VI-2001, 信貴畑
- 30 サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (BOES. et STR., 1906) 2♀, 24-VI-2001, 信貴畑
- 31 ゲホウグモ *Polys illepidus* C.KOCH, 1843 1♀, 30-IX-2001, 立野

アシナガグモ科 Tetragnathidae

- 1 オオシロカネグモ *Leucauge magnifica* YAGINUMA, 1952 1♀, 24-VI-2001, 立野
- 2 コシロカネグモ *Leucauge subblanda* BOES. et STR., 1906 1♀, 4-V-2001, 立野
- 3 キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea* BOES. et STR., 1906 1♀, 8-VII-2002, 立野
- 4 キンヨウグモ *Menosira ornate* CHIKUNI, 1955 1♀1♂, 22-IX-2002, 立野
- 5 タニマドヨウグモ *Metleucauge kompirensis* BOES. et STR., 1906 1♀, 20-V-2001, 久安寺(目撃)
- 6 メガネドヨウグモ *Metleucauge yunohamensis* BOES. et STR., 1906 1♀, 20-V-2001, 久安寺(目撃)
- 7 ジョロウグモ *Nephila clavata* L.KOCH, 1878 1♀, 21-X-2001, 立野
- 8 アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* L.KOCH, 1878 1♀, 19-V-2002, 南畑 ;  
1♂, 30-IX-2002, 立野
- 9 ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata* KARSCH, 1879 1♀1♂, 22-V-2002, 立野

ヒラタグモ科 Urocteidae

- 1 ヒラタグモ *Uroctea compactilis* L.KOCH, 1878 1♀, 14-IV-1999, 信貴山

タナグモ科 Agelenidae

- 1 クサグモ *Agelena limbata* THORELL, 1879 1♂, 8-VIII-2001, 信貴畑
- 2 コクサグモ *Agelena opulenta* L.KOCH, 1878 1♀, 21-X-2001, 城山台
- 3 シモフリヤチグモ *Coelotes insidiosus* L.KOCH, 1878 1♀, 4-III-2001, 信貴畑

コモリグモ科 Lycosidae

- 1 ウツキコモリグモ *Pardosa astrigera* L.KOCH, 1878 1♀, 5-V-2002, 立野
- 2 ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* KARSCH, 1879 2♀1♂, 5-V-2002, 立野
- 3 イモコモリグモ *Pirata piratoides* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 29-IV-2002, 立野
- 4 ナミコモリグモ *Pirata yaginumai* TANAKA, 1974 1♀, 24-V-2002, 信貴畑

キシダグモ科 Pisauridae

- 1 スジプトハシリグモ *Dolomedes pallitarsis* (DOEN. et STR., 1906) 1♀, 24-VI-2001, 信貴畑
- 2 イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfreus* (L.KOCH, 1878) 1♀, 20-VII-2000, 立野
- 3 アズマキシダグモ *Pisaura lama* BOES. et STR., 1906 1♀, 29-IV-2002, 立野

アシダカグモ科 Heteropodidae

- 1 コアシダカグモ *Heteropoda forcipata* (KARSCH, 1881) 1♀, 12-VIII-2002, 立野
- 2 アシダカグモ *Heteropoda venatoria* (LINNE, 1758) 1♀, 8-VIII-1999, 城山台;  
1♂, 19-VIII-2000, 城山台

フクログモ科 Clubionidae

- 1 ハマキフクログモ *Clubiona japonicola* BOES. et STR., 1906 1♂, 24-V-2002, 信貴畑
- 2 ムナアカフクログモ *Clubiona vigil* KARSCH, 1879 1♀, 30-VII-1999, 信貴畑(目撃)

ウエムラグモ科 Liocranidae

- 1 イタチグモ *Itatsina praticola* (BOES. et STR., 1906) 3♀, 27-X-2001, 立野
- 2 コムラウラシマグモ *Phrurolithus komurai* YAGINUMA, 1952 1♀, 27-X-2001, 立野

シボグモ科 Ctenidae

- 1 シボグモ *Anahita fauna* KARSCH, 1879 2♀, 5-IV-2002, 立野

ワシグモ科 Gnaphosidae

- 1 マエトビケムリグモ *Sernokorba pallidipatellis* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 24-VI-2001, 立野(目撃)
- 2 クロチャケムリグモ *Zelotes asiaticus* (BOES. et STR., 1906) 1♀, 15-VII-2001, 立野

ササグモ科 Oxyopidae

- 1 ササグモ *Oxyopes sertatus* L.KOCH, 1878 1♀, 5-IV-2001, 立野

カニグモ科 Thomisidae

- 1 コハナグモ *Diaea subdola* O.P.CAMBRIDGE, 1885 1♀, 24-V-2002, 立野
- 2 アシナガカニグモ *Heriaeus mellotteei* SIMON, 1886 1♀, 30-VII-1999, 信貴畑
- 3 ハナグモ *Misumenops tricuspidatus* (FABRICIUS, 1775) 1♀, 13-VIII-2000, 立野;  
1♂, 29-IV-2002, 立野
- 4 ワカバグモ *Oxytate striatipes* L.KOCH, 1878 1♀, 20-V-2001, 立野
- 5 ガザミグモ *Pistius undulatus* KARSCH, 1879 1♀, 13-V-2001, 立野(目撃)
- 6 フノジグモ *Synaema globosum* (FABRICIUS, 1775) 2♀, 18-V-2000, 立野(目撃)
- 7 アズチグモ *Thomisus labefactus* KARSCH, 1881 1♀, 15-VII-2001, 立野;

1 幼体, 14-X-2002, 立野

8 ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* FOX, 1937 1♀, 24-VI-2001, 立野

エビグモ科 Philodromidae

1 キハダエビグモ *Phidromus spinatarsis* SIMON, 1895 1♀, 14-VII-2002, 信貴畑

2 シャコグモ *Tibellus tenellus* (L.KOCH, 1876) 1♀, 5-V-2002, 信貴畑

ハエトリグモ科 Salticidae

1 ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* (LATREILLE, 1819) 1♀, 4-V-2001, 久安寺

2 マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L.KOCH, 1878) 1♂, 24-V-2002, 立野

3 アダンソンハエトリ *Hasarius adansoni* (AUDOUIN, 1827) 1♀, 12-VI-1998, 城山台

4 デーニッツハエトリ *Hasarius doenitzi* KARSCH, 1879 1♂, 5-V-2002, 立野

5 ヤハズハエトリ *Marpissa elongata* (KARSCH, 1879) 1♂, 7-VIII-2000, 立野

6 オスクロハエトリ *Marpissa magister* (KARSCH, 1879) 1♀, 5-VIII-2001, 信貴畑(目撃)

7 ヨダンハエトリ *Marpissa pulla* (KARSCH, 1879) 1♀, 29-IV-2002, 立野

8 シラヒゲハエトリ *Menemerus fulvus* (L.KOCH, 1878) 1♀, 13-VIII-2000, 城山台(目撃)

9 ヤサアリグモ *Myrmarachne innermichelis* BOES. et STR., 1906 1♀, 30-VII-1999, 信貴畑(目撃)

10 アリグモ *Myrmarachne japonica* (KARSCH, 1879) 1♀, 5-VIII-2001, 城山台

11 メスジロハエトリ *Phintella versicolor* (C.KOCH, 1846) 1♀, 15-VII-2001, 信貴畑(目撃)

12 チャスジハエトリ *Plexippus paykulli* (AUDOUIN, 1827) 1♀, 24-VI-2001, 城山台; 1♂, 14-X-2002, 城山台

13 ミスジハエトリ *Plexippus setipes* KARSCH, 1879 1♂, 9-VIII, 2002, 城山台

14 アオオビハエトリ *Siler cupreus* SIMON, 1889 1♀, 15-VII-2001, 城山台

15 ムツバハエトリ *Yaginumanis sexdentatus* (YAGINUMA, 1967) 1♂, 14-X-2002, 南畑

参考文献

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. 308pp. 偕成社, 東京.

池田博明, 1998. クモ生理生態事典(改定版).

<http://www.ne.jp/asahi/jumpingspider/studycenter/spiderdic.htm>

新海栄一・高野伸二, 1984. フィールド図鑑クモ. 204pp. 東海大学出版会, 東京.

谷川明男, 2002. 日本産クモ類目録 Ver.2002R1pdf 版.

<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/>

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. 305pp., pls. 1-64. 保育社, 大阪.

## 滋賀県天神川のクモ

船曳和代・榎元ともこ

2002年4月30日、滋賀県大津市の天神川流域でクモの採集会を行ったので、その結果を報告する。採集会に参加したのは「大津流域ワークショップ指導者連絡会」の会員7人と船曳和代、榎元ともこの計9人。連絡会の会員が採集した標本は、それぞれ採集した人が持ち帰ったため、リストに上がっているのは、船曳と榎元が採集したもののみとなっている。

天神川は比叡山に源流を發し、途中、大倉川と合流して琵琶湖に注ぐ川である。上流域は有名な仰木の棚田があり、自然環境に恵まれているが、中流・下流域は住宅地、商業地となり、水質も低下している。

今回は、河口付近にある「なぎさ公園」、大倉川との合流地点である「落合橋周辺」、大倉川上流の3地点でクモの採集を行った。時期的に幼体が多かった。同定には船曳があたり(一部榎元)、分からない標本については加村隆英氏に同定をお願いし、谷川明男氏には種の並べ替えをお願いした。両氏には厚く御礼を申し上げる。

### 堅田2丁目なぎさ運動公園

#### Theridiidae ヒメグモ科

*Argyrodes bonadea* (Karsch 1881) シロカネイソウロウグモ 1y

*Achaeearanea* sp. ツリガネヒメグモの一種 2♀y

#### Linyphiidae サラグモ科

*Diplocephaloides saganus* (Bosenberg & Strand 1906) ハラジロムナキグモ 3♀

#### Tetragnathidae アシナガグモ科

*Tetragnatha praedonia* L. Koch 1878 アシナガグモ 1♂y, 4y, 1♀y

*Tetragnatha squamata* Karsch 1879 ウロコアシナガグモ 2♂, 1y, 1♀

*Tetragnatha caudicula* (KARSCH, 1879) トガリアシナガグモ 1♀亜

#### Araneidae コガネグモ科

*Araneus cornutus* Clerck 1758 ナカムラオニグモ 1♂y, 1♀y

*Yaginomia sia* (Strand 1906) ズグロオニグモ 1♂, 1♀, 1♀y

*Larinia argiopiformis* Bos. et STR., 1906 コガネグモダマシ 1♀

#### Lycosidae コモリグモ科

*Pardosa astrigera* L. Koch 1878 ウヅキコモリグモ 1y

*Pardosa laura* Karsch 1879 ハリゲコモリグモ 1♀

*Pardosa pseudoannulata* (Bos. & Str. 1906) キクヅキコモリグモ 1♀

#### Pisauridae キシダグモ科

*Dolomedes sulfureus* L. Koch 1878 イオウイロハシリグモ 1y

#### Agelenidae タナグモ科

*Agelena limbata* Thorell 1879 クサグモ 1y

Dictynidae ハグモ科

*Dictyna felis* Bos. et STR. 1906 ネコハグモ 1♀y

Clubionidae フクログモ科

*Chiracanthium japonicum* Bos. et Str. 1906 カバキコマチグモ 1♂y

Philodromidae エビグモ科

*Philodromus auricomus* L. Koch 1878 キンイロエビグモ 2y

Thomisidae カニグモ科

*Misumenops tricuspidatus* (Fabricius 1775) ハナグモ 1♂, 1♀, 1♀y

Salticidae ハエトリグモ科

*Carrhotus xanthogramma* (Latreille 1819) ネコハエトリ 1♂

*Mendoza canestrinii* (Niini in Canestrini & Pavei 1868) オスクロハエトリ 1♀y

*Phintella difficilis* (Bos. et STR., 1906) マガネアサヒハエトリ 1y

*Rhene atrata* (KARSCH, 1881) カラスハエトリ 1♀亜

*Myrmarachne japonica* (Karsch 1879) アリグモ 1♂亜

*Rhene* sp. ヒメカラスハエトリ ♂

仰木5丁目落合橋

Mimetidae センシヨウグモ科

*Mimetus testaceus* Yaginuma 1960 オオセンシヨウグモ 1♀

Uloboridae ウズグモ科

*Octonoba varians* (Bos. & Str. 1906) ウズグモ 1♂, 1♀

Theridiidae ヒメグモ科

*Argyrodes bonadea* (Karsch 1881) シロカネイソウロウグモ 1♂y

Linyphiidae サラグモ科

*Labulla contortipes* (Karsch 1881) アシヨレグモ 1♀

*Turinyphia yunohamensis* (Bos. & Str. 1906) ユノハマサラグモ 2♀

Tetragnathidae アシナガグモ科

*Leucauge magnifica* Yaginuma 1954 オオシロカネグモ 1♂y, 1♀y

*Tetragnatha praedonia* L. Koch 1878 アシナガグモ 1♂, 3y

*Tetragnatha squamata* Karsch 1879 ウロコアシナガグモ 1y

Araneidae コガネグモ科

*Acusilas coccineus* Simon 1895 ハツリグモ 1y

*Argiope amoena* L. Koch 1878 コガネグモ 2y

*Argiope boesenbergi* Levi 1983 チュウガタコガネグモ 1y

*Cyclosa argenteoalba* Bos. & Str. 1906 ギンメッキゴミグモ 2♀

*Cyclosa octotuberculata* Karsch 1879 ゴミグモ 1♂y, 1♀亜

*Cyclosa sedeculata* Karsch 1879 ヨツデゴミグモ 1♀, 1♀y

*Neoscona scylla* (Karsch 1879) ヤマシロオニグモ 1♀y

Lycosidae コモリグモ科



*Pardosa laura* Karsch 1879 ハリゲコモリグモ 2♀亜

**Pisauridae キシダグモ科**

*Pisaura lama* Bos. & Str. 1906 アズマキシダグモ 4♂, 2♀

**Oxyopidae ササグモ科**

*Oxyopes sertatus* L. Koch 1878 ササグモ 1♀亜

**Ctenidae シボグモ科**

*Anahita fauna* Karsch 1879 シボグモ 1♂y

**Philodromidae エビグモ科**

*Philodromus auricomus* L. Koch 1878 キンイロエビグモ 1♂y

*Tibellus tenellus* (L. Koch 1876) シャコグモ 1♂y

**Thomisidae カニグモ科**

*Misumenops tricuspidatus* (Fabricius 1775) ハナグモ 1♂y, 1♀, 1♀y

*Oxytate striatipes* L. Koch 1878 ワカバグモ 1♀

*Xysticus croceus* Fox 1937 ヤミイロカニグモ 2♂, 3♀

**Salticidae ハエトリグモ科**

*Evarcha albaria* (L. Koch 1878) マミジロハエトリ 2♀

*Plexippoides doenitzi* (Karsch 1879) デーニッツハエトリ 1♂y, 1♀

**大倉川上流**

**Pholcidae ヨウレイグモ科**

*Pholcus crypticolens* Bos. & Str. 1906 ヨウレイグモ 1♂亜

**Uloboridae ウズグモ科**

*Miagrammopes orientalis* Bos. & Str. 1906 マネキグモ 1♀y, 2y

*Octonoba varians* (Bos. & Str. 1906) ウズグモ 1♂, 3♀

**Theridiidae ヒメグモ科**

*Ariamnes cylindrogaster* (Simon 1888) オナガグモ 1♀y, 1y

*Takayus chikunii* (Yaginuma 1960) パラギヒメグモ 1♀

**Linyphiidae サラグモ科**

*Neolinyphia nigripectoides* (Oi 1960) ムネグロサラグモ 1♂, 3♀

*Turinyphia yunohamensis* (Bos. & Str. 1906) ユノハマサラグモ 2♀

**Tetragnathidae アシナガグモ科**

*Leucauge magnifica* Yaginuma 1954 オオシロカネグモ 1♂亜, 1♀y

*Tetragnatha maxillosa* Thorell 1895 ヤサガタアシナガグモ 1y

*Tetragnatha squamata* Karsch 1879 ウロコアシナガグモ 1♀

**Araneidae コガネグモ科**

*Argiope amoena* L. Koch 1878 コガネグモ 1y

*Cyclosa argenteoalba* Bos. & Str. 1906 ギンメッキゴミグモ 1♀y

*Cyclosa octotuberculata* Karsch 1879 ゴミグモ 1♂y

*Cyclosa sedeculata* Karsch 1879 ヨツデゴミグモ 2♀

くものいと, No. 33, Mar. 2003

*Eriophora sachalinensis* (S. Saito 1934) カラフトオニグモ 1♂

*Neoscona scylla* (Karsch 1879) ヤマシロオニグモ 1♀y

Lycosidae コモリグモ科

*Pardosa astrigera* L. Koch 1878 ウヅキコモリグモ 1♀

Pisauridae キシダグモ科

*Pisaura lama* Bos. & Str. 1906 アズマキシダグモ 1♀

*Dolomedes sulfureus* L. Koch 1878 イオウイロハシリグモ 1y

Agelenidae タナグモ科

*Agelena limbata* Thorell 1879 クサグモ 1y

Oxyopidae ササグモ科

*Oxyopes sertatus* L. Koch 1878 ササグモ 1♀y, 2y

Philodromidae エビグモ科

*Philodromus subaureolus* Bos. & Str. 1906 アサヒエビグモ 1♀y

Salticidae ハエトリグモ科

*Evarcha albaria* (L. Koch 1878) マミジロハエトリ 1♀

*Plexippus setipes* Karsch 1879 ミスジハエトリ 1♂y

※「大津流域ワークショップ指導者連絡会」

滋賀県の「マザーレイク 21 計画」(琵琶湖総合保全計画)を受けて、琵琶湖に流入する河川の上・中・下流域の住民がお互いに協力して河川の保全に取り組めるよう、住民の保全活動をバックアップするために結成されたグループ。水質検査、植生検査、生き物調査、自然観察会などを行っている。

採集散策日記～奈良県大和高田市(神社編)～

赤松 史憲

奈良県内の神社を主なフィールドとして活動している赤松です。以前、くものいと(No.29, Jan.2001)に「私のクモ採集記録」として投稿したのですが、その時に採集年月日や性別を記載していなかったため、今回新たに採集できた個体も含め、ここに示したいと思えます。

以前くものいとに記載分の再記載個体は斜字で示すものとします。また表記に関しては、採集地(神社名)・所在地、環境状態(樹:樹木あり 草:草地あり 建:人工建築物あり)、和名・採集個体数・性別(y は幼体)・採集年月日の順で示します。また個人的に一部同定が完了していないクサグモとコクサグモの y について、今回記載は除いています。

—大和高田市—

面積:16.48km<sup>2</sup> 人口:75080人 人口密度:455  
5.8人/km<sup>2</sup> (2002.12.1 現在)

奈良盆地に位置し、市内に大きな河川や山はなく、宅地化  
がかなり進んだ地域です。

採集者:赤松史憲 種数:70種

池尻天神社 大和高田市池尻

<建>

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 1 アシナガグモ    | 1y(2001.4.1)     |
| 2 オオヒメグモ    | 1♀,1y♂(2001.4.1) |
| 3 ギンメッキゴミグモ | 1y♂(2001.4.1)    |
| 4 シマゴミグモ    | 1y,1y♂(2001.4.1) |
| 5 ネコハグモ     | 1♀(2001.4.1)     |
| 6 ヒラタグモ     | 1y(2001.4.1)     |
| 7 メガネヤチグモ   | 1♀(2001.4.1)     |
| オニグモの一種     | 1y(2001.4.1)     |

巖嶋神社 大和高田市日之出東本町

<樹・建>

境内にはじやり石が敷き詰めてあり、樹木の剪定がよくなされている。神社の敷地はかなり狭く、周囲は住宅地である。

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1 アオオビハエトリ  | 1y♂(2001.4.6) |
| 2 ギンメッキゴミグモ | 1y(2001.4.6)  |
| 3 クロガケジグモ   | 2y(2001.4.6)  |
| 4 シラヒゲハエトリ  | 1y(2001.4.6)  |
| ヒメグモ科       | 1y(2001.4.6)  |
| コモリグモ科      | 1y(2001.4.6)  |

稲荷神社 大和高田市藤森

<樹・草・建>

神社の周囲(二方)が環濠で囲まれており、その向こうには水田が広がっている。裏の社寺林内にはあまり人の手が加えられていない。神社前の境内には遊具があり、比較的小さい子供が時々遊んでいた。神社の敷地は広い。

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 1 アシナガグモ    | 1y(2001.4.7) 2y(2002.8.24) |
| 2 アズマカニグモ   | 1y♂(2001.4.7)              |
| 3 アリグモ      | 1♀,1y♂(2001.4.7)           |
| 4 イナズマハエトリ  | 2y(2001.4.7)               |
| 5 ウズグモ      | 1y(2001.4.7)               |
| 6 ウロコアシナガグモ | 1♂,1♀(2002.8.24)           |

7 オオヒメグモ	1 ♀, 1y♂(2001.4.7) 1y(2002.8.24)
8 カラスハエトリ	1 ♀, 1y♂(2001.4.7)
9 キハダカニグモ	2y♂(2001.4.7)
10 キンイロエビグモ	1y(2001.4.7)
11 ギンメッキゴミグモ	2y♀(2001.4.7)
12 クサグモ	1 ♀(2002.8.24)
13 クロガケジグモ	2y(2001.4.7) 2♀(2002.8.24)
14 シマゴミグモ	1y(2001.4.7)
15 シラヒゲハエトリ	1y♀(2001.4.7)
16 ネコハグモ	1y(2001.4.7) 1y♂(2002.8.24)
17 ハナグモ	2y(2001.4.7)
18 ヒラタグモ	1y♂(2001.4.7)
19 マミジロハエトリ	1y♂, 1y(2001.4.7)
20 ヤサガタアシナガグモ	1♂(2002.8.24)
コモリグモ科	1y(2001.4.7) 2y(2002.8.24)
タナグモ科	1y(2002.8.24)
アシナガグモ科	1y(2002.8.24)
ハエトリグモ科	2y(2002.8.24)

岡崎稲荷神社 大和高田市岡崎

<樹・草・建>

周辺地域(住宅地)より少し高い位置にある。地面に蛙の穴があったりし、樹木による日陰が多い。スズメバチの死骸が多くあった。

1 アシダカグモ	1 ♀(2002.10.5)
2 ギンメッキゴミグモ	1 ♀, 1y(2002.10.5)
3 コクサグモ	1 ♀(2002.10.5)
4 ジョロウグモ	1♂, 1y♀(2002.10.5)
5 ヒラタグモ	1y(2002.10.5)
6 マネキグモ	1y(2002.10.5)
コモリグモ科	1y(2002.10.5)

春日神社 大和高田市春日町(二)

<樹・建>

1 アオオビハエトリ	1y♂(2001.4.15)
2 アシナガグモ	1y♂(2001.4.15)
3 イナズマハエトリ	1y(2001.4.15)
4 オオヒメグモ	1♂(2001.4.15)
5 カラフトオニグモ	1y(2001.4.15)
6 ギンメッキゴミグモ	1♂, 1y(2001.4.15) 1♀(2002.8.23)

7	キンイロエビグモ	1y♂(2001.4.15)
8	クロガケジグモ	1y♂,2y(2001.4.15)
9	コクサグモ	1y♀(2002.8.23)
10	ジグモ	1y(2001.4.15) 1♀(2002.8.23)
11	ジョロウグモ 1	y(2002.8.23)
12	ヒラタグモ	1y♂(2001.4.15) 1♀(2002.8.23)
13	メガネドヨウグモ	1y♀(2001.4.15)
	コモリグモ科	1y(2001.4.15) 1y(2002.8.23)

春日神社 大和高田市西坊城

<樹・草・建>

周囲は水田に囲まれている。

1	アシナガグモ	1y(2001.9.22)
2	オオヒメグモ	1y(2002.8.23)
3	コクサグモ	1♀(2002.8.23)
4	ジョロウグモ	1y♀(2001.9.22)
5	ビジョオニグモ	1♀(2001.9.22) 1♀(2002.8.23)
6	ヒラタグモ	1y♀(2001.9.22)
	タナグモ科	1y(2001.9.22) 1y(2002.8.23)
	コモリグモ科	1y(2002.8.23)

春日神社(大中神社) 大和高田市大中

<樹・建>

交通量の多い堤防上の道路の横に位置している。境内にはじゃり石が敷き詰められており、参拝にたびたび人が訪れている。

1	アリグモ	1y♂(2001.10.18)
2	オオヒメグモ	1♀(2001.10.18)
3	キハダカニグモ	2y(2001.10.18)
4	ギンメッキゴミグモ	2y(2001.10.18)
5	シマゴミグモ	1♀,1y(2001.10.18)
6	チリグモ	1y(2001.10.18)
7	ヒラタグモ	1y(2001.10.18)
	アシダカグモ科	1y(2001.10.18)

春日神社 大和高田市南本町

<樹・建>

1	オオヒメグモ	1y♂(2002.4.28)
2	チリグモ	1♀(2002.4.28)
3	ネコハグモ	1y(2002.4.28)

ヒメグモ科	1y♂(2002.4.28)
タナグモ科	2y(2002.4.28)

春日神社 大和高田市岡崎

<樹・草・建>

近くに水田が多く、樹木はまばらで日当たりがよい。スズメバチが時々飛んでいるのが目に付く。

1 ウロコアシナガグモ	1y(2002.10.5)
2 ギンメッキゴミグモ	1y(2002.10.5)
3 コクサグモ	1♀(2002.10.5)
4 ゴミグモ	1y(2002.10.5)
5 シマゴミグモ	1♀(2002.10.5)
6 ジョロウグモ	1♂, 1♂(2002.10.5)
7 デーニッツハエトリ	1y(2002.10.5)
8 ネコグモ	1y(2002.10.5)
9 ビジョオニグモ	1♀(2002.10.5)
10 ヒメグモ	1♀(2002.10.5)
11 ヒラタグモ	1y(2002.10.5)
12 ムナボシヒメグモ	1♀(2002.10.5)
13 ヤサアリグモ	1y♂(2002.10.5)
コモリグモ科	1y(2002.10.5)

春日神社 大和高田市築山

<樹・建>

樹木は一部に疎であるだけで、地表丸出しの部分(何も無い部分)が多い。

1 アシダカグモ	1♀(2001.10.14)
2 アリグモ	1y♀(2001.10.14)
3 オオヒメグモ	1y(2001.10.14)
4 ギンメッキゴミグモ	1y(2001.10.14)
5 ジョロウグモ	1♀(2001.10.14)
6 シラヒゲハエトリ	1y(2001.10.14)
7 メガネヤチグモ	1♀(2001.10.14)
タナグモ科	1♀, 1y(2001.10.14)

春日若宮神社 大和高田市池田

<樹・建>

1 ジョロウグモ	1y♀(2002.10.6)
2 ヒラタグモ	1♀(2002.10.6)
ヒメグモ科	1y(2002.10.6)

タナグモ科	1y(2002.10.6)
コモリグモ科	1y(2002.10.6)
エビグモ科	1y(2002.10.6)

蔵宮神社 大和高田市蔵之宮町

<樹・草・建>

社寺林がうっそうとあり、地面には落ち葉が厚く積もっている。神社の敷地は広く、樹木のために暗い。蚊が多かった。

1 アズチグモ	1 ♀(2002.8.23)
2 アズマキシダグモ	1y(2000.6.18) 1y(2001.2.27)
3 アリグモ	2y(2002.8.23)
4 ウズグモ	1y(2001.2.27)
5 ウロコアシナガグモ	1y(2001.2.27)
6 オオヒメグモ	1 ♀(2002.8.23)
7 カグヤヒメグモ	1y♂(2002.8.23)
8 カミガタヤチグモ	1y(2002.8.23)
9 カレハヒメグモ	1y(2002.8.23)
10 キハダエビグモ	1 ♀(2000.6.18)
11 ギンメッキゴミグモ	1y(2000.6.18) 1 ♀, 1y(2001.2.27) 1 ♀(2002.8.23)
12 コクサグモ	1 ♂, 1y ♀(2002.8.23)
13 ジョロウグモ	1y(2002.8.23)
14 ハナグモ	1 ♂(2001.2.27)
15 ヒメグモ	1 ♀, 1y(2002.8.23)
16 ヒラタグモ	1y(2002.8.23)
17 メスジロハエトリ	1y(2002.8.23)
18 ヤバネウラシマグモ	1 ♂, 1 ♀(2000.6.18)
アシナガグモ科	1y(2001.2.27)
コモリグモ科	1y(2002.8.23)
ハエトリグモ科	1y(2002.8.23)
エビグモ科	1y(2002.8.23)

琴平神社 大和高田市松塚

<樹・建>

周囲は住宅地で、神社の敷地は狭い。

1 アシナガグモ	1 ♀(2001.8.25)
2 イナズマハエトリ	1y(2001.8.25)
3 ウロコアシナガグモ	1 ♂(2001.8.25)
4 ジグモ	1y(2001.8.25)

5 ジョロウグモ	1y(2001.8.25)
6 ヒメグモ	1♀(2001.8.25)
7 ヒラタグモ	1y(2001.8.25)
ガケジグモ科	1♀,1y♂(2001.8.25)

神楽神社 大和高田市神楽

<樹・建>

以前は樹木が密に生えていた部分があったのだが、2年ほど前からすぐ横のため池の改修工事が行われており、そのために樹の数の半分ほどが切られ、工事車両が頻繁に出入りしている。

1 オオヒメグモ	1y(2000.10.7) 1♀,1y(2002.8.24)
2 カタオカハエトリ	1(1997.7)←田中穂積さん同定
3 ギンメッキゴミグモ	1♀(2000.10.7) 1♀(2002.8.24)
4 コクサグモ	1♀(2000.10.7)
5 コンピラヒメグモ	1y♀(2000.10.7)
6 ジョロウグモ	1y(2000.10.7) 1y(2002.8.24)
7 チリグモ	1y(2002.8.24)
8 ネコハエトリ	1♀(1999.5.29)
9 ネコハグモ	1y(2002.8.24)
10 ヒメグモ	1y♀(2002.8.24)
11 ヒラタグモ	1y(2000.10.7) 1♀(2002.8.24)
12 マネキグモ	1y(2002.8.24)
13 ミヤグモ	1♀(1999.5.29)
14 ユカタヤマシログモ	1y♀(1999.5.29)
カニグモ科	1y(2000.10.7)
ハエトリグモ科	1y(2000.10.7) 1y(2002.8.24)
タナグモ科	1y(2000.10.7)
ワシグモ科	1y(2002.8.24)

曾祢神社 大和高田市曾大根

<樹・建>

1 ウロコアシナガグモ	1♂,1♀,1y(2001.2.23)
2 キンイロエビグモ	1♀(2001.2.23)
3 クロガケジグモ	1♀(2001.2.23)
4 シマゴミグモ	1y♀(2001.2.23)
5 セスジアカムネグモ	1♀,1y(2001.2.23)
6 ミスジハエトリ	1y(2001.2.23)
7 ハナグモ	1♂(2001.2.23)
8 ハンゲツオスナキグモ	♀(2001.2.23)



- |            |                |
|------------|----------------|
| 9 マミジロハエトリ | 1y♀(2001.2.23) |
| フクログモ科     | 1♂(2001.2.23)  |

天神宮 大和高田市有井

<樹・建>

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| 1 アリグモ      | 1y♀(2001.10.14) |
| 2 オオヒメグモ    | 1y♀(2001.10.14) |
| 3 ギンメッキゴミグモ | 1y♀(2001.10.14) |
| 4 コクサグモ     | 1♀(2001.10.14)  |
| 5 ジョロウグモ    | 1♂(2001.10.14)  |
| 6 ヒラタグモ     | 1y(2001.10.14)  |

天神社 大和高田市幸町

<樹・草・建>

参道にはじゃり石が敷き詰めてあり、人通りが多い。しかし社寺林内はうっそうと樹や草に覆われている(最近一部のみ伐採)。タマムシと鳩が多い。神社の敷地は広い。

- |               |                               |
|---------------|-------------------------------|
| 1 アシナガグモ      | 1♀(1999.7.5)                  |
| 2 ウロコアシナガグモ   | 1♀(2002.8.1)                  |
| 3 オオヒメグモ      | 1♀(1999.7.5) 1♀(2002.8.1)     |
| 4 オオヤミイロカニグモ  | 1♀(1999.7.19)                 |
| 5 オダカグモ       | 1♀(2002.8.1) 1♀(2002.8.17)    |
| 6 カタハリウズグモ    | 2♀(2000.5.21)                 |
| 7 キララシロカネグモ   | 1♀(2000.7.5)                  |
| 8 ギンナガゴミグモ    | 1♂(1999.7.20)                 |
| 9 ギンメッキゴミグモ   | 1♀(1999.7.5) 1y(2002.8.1)     |
| 10 クサグモ       | 1y♂(2002.8.1)                 |
| 11 クロミジグモ     | 1♀(1999.7.5)                  |
| 12 コアシダカグモ    | 1y(2002.8.1)                  |
| 13 コクサグモ      | 1♂(2000.7.5) 1♂,1y♀(2002.8.1) |
| 14 ジョロウグモ     | 1y(2002.8.1)                  |
| 15 ハラビロアシナガグモ | 1♀(1999.7.20)                 |
| 16 ハリゲコモリグモ   | 1♂(2000.5.21)                 |
| 17 ヒメグモ       | 1y(2002.8.1)                  |
| 18 ヒラタグモ      | 1y(2002.8.1)                  |
| 19 メスジロハエトリ   | 2y(2002.8.1)                  |
| 20 ヤサガタアシナガグモ | 1♀(1999.7.20)                 |
| 21 ヤマシロオニグモ   | 2y♀(2000.5.21)                |
| クサグモの一種       | 1y(2002.8.1)                  |

コガネグモの一種	1y(2002.8.1)
コモリグモ科	2y(2002.8.1)
カニグモ科	1y(2002.8.1)
フクログモ科	1♀(2002.8.1)
タナグモ科	1y(2002.8.1)
ハエトリグモ科	1y(2002.8.1)

土庫天神社 大和高田市土庫(二)

<樹・草・建>

周辺には水田や畑が多く、樹は疎。

1 アシナガグモ	1y(2001.4.6)	1♀(2002.8.24)
2 ウロコアシナガグモ	1y(2001.4.6)	1y(2002.8.24)
3 オオヒメグモ	1y(2001.4.6)	
4 キハダエビグモ	1y♀,1y(2002.8.24)	
5 ギンナガゴミグモ	1y(2002.8.24)	
6 コガタコガネグモ	1♀(2002.8.24)	
7 コクサグモ	1y♀(2002.8.24)	
8 ジグモ	1y(2002.8.24)	
9 シマゴミグモ	1♀,2y(2001.4.6)	1♀(2002.8.24)
10 ジョロウグモ	1y(2002.8.24)	
11 シラヒゲハエトリ	1♀(2001.4.6)	
12 チュウガタシロカネグモ	1y(2001.4.6)	
13 チリグモ	1y(2002.8.24)	
14 ネコグモ	1y(2002.8.24)	
15 ネコハグモ	1y(2002.8.24)	
16 ハナグモ	1y♂(2001.4.6)	
17 ヒラタグモ	1♀(2001.4.6)	1y(2002.8.24)
18 マネキグモ	1♀,1y(2002.8.24)	
19 ミスジハエトリ	1♀,1y(2001.4.6)	
コモリグモ科	1y,1y♂(2001.4.6)	1y♂,1y(2002.8.24)

八王子神社 大和高田市永和町

<建>

樹も草もなく、狭い。

1 オオヒメグモ	1y♂(2002.4.28)
2 ギンメッキゴミグモ	1♀(2002.4.28)
3 コゲチャハエトリの一種	1♀,1y(2002.4.28)

弁天神社 大和高田市奥田

<樹・草・建>

1 アシナガグモ	1 ♀(2001.9.22)
2 オオヒメグモ	1 ♀(2001.9.22)
3 ギンメッキゴミグモ	1y(2001.9.22)
4 クロガケジグモ	2y(2001.9.22)
5 コクサグモ	2 ♀(2001.9.22)
6 ジョロウグモ	1y♀(2001.9.22)
7 ネコハグモ	1♂, 1y(2001.9.22)
8 マネキグモ	1y(2001.9.22)
9 ミスジハエトリ	1 ♀, 1y(2001.9.22)

保食神社 大和高田市野口

<樹・草・建>

住宅地と水田の境にあり, 樹木の下には笹が茂っている。

1 アリグモ	2y♂(2002.10.12)
2 オオヒメグモ	1y(2002.10.12)
3 ギンメッキゴミグモ	1 ♀, 1y(2002.10.12)
4 クロガケジグモ	1 ♀, 1y(2002.10.12)
5 コクサグモ	1 ♀, 1 ♂(2002.10.12)
6 ジグモ	1y(2002.10.12)
7 シマゴミグモ	1 ♀(2002.10.12)
8 シモフリミジグモ	2y(2002.10.12)
9 ジョロウグモ	1 ♂, 1 ♀(2002.10.12)
10 チリグモ	1y(2002.10.12)
11 ネコグモ	1y♂(2002.10.12)
12 ヒラタグモ	1y(2002.10.12)
13 メガネヤチグモ	2♂(2002.10.12)
14 メスジロハエトリ	1y♀(2002.10.12)
15 ワスレナグモ	1y(2002.10.12)
16 コゲチャハエトリの一種	1 ♀(2002.10.12)
アシナガグモ科	1y(2002.10.12)
コモリグモ科	1y(2002.10.12)

八幡神社 大和高田市本郷町

<樹・建>

1 アシブトハエトリ	1y♀, 1y(2001.10.7)
2 ギンメッキゴミグモ	1y(2001.10.7)
3 ヒラタグモ	1y♂(2001.10.7)
ハエトリグモ科	1y♂(2001.10.7)

龍王宮 大和高田市片塩町

<樹・建>

数年前に本堂が焼失したが、現在は再建された。じゅり石が敷き詰められており、人通りが多い。

1 アシナガグモ	1 ♀(2001.10.20)
2 アリグモ	1 ♀(2001.10.20)
3 ギンメッキゴミグモ	1 ♀(2001.10.20)
4 ヒラタグモ	1 ♀(2001.10.20)
5 ビジョオニグモ	1 ♀(2001.10.20)
6 メスジロハエトリ	1y♀(2001.10.20)
ヒメグモ科	1 ♀(2001.10.20)
カニグモ科	1y(2001.10.20)
フクログモ科	1y(2001.10.20)

神社(神社名不明) 大和高田市根成柿

<樹・建>

周囲には水田が広がり、社寺林は暗い。

1 アシナガグモ	1 ♀, 2y(2001.8.8) 1 ♀, 1 ♂(2002.8.23)
2 ウロコアシナガグモ	1 ♂(2001.8.8)
3 オオヒメグモ	1y(2001.8.8) 1y(2002.8.23)
4 キハダエビグモ	1y(2001.8.8)
5 クサグモ	1 ♀, 1y♂(2001.8.8) 1 ♀(2002.8.23)
6 クロガケジグモ	1y(2001.8.8)
7 ジグモ	1y(2001.8.8)
8 シロカネイソウロウグモ	1y(2001.8.8)
9 ヒラタグモ	1y♂(2001.8.8) 1y♂(2002.8.23)
10 ムナボシヒメグモ	1 ♀(2001.8.8)
11 メスジロハエトリ	1 ♀, 1y♀, 1y♂(2001.8.8) 1y♀(2002.8.23)
フクログモ科	1y(2001.8.8)
ハエトリグモ科	1y(2001.8.8) 2y(2002.8.23)
ガケジグモ科	1y♀(2002.8.23)

神社(光妙寺付近) 大和高田市池田

<樹・建>

神社裏に竹やぶが広がっている。

1 オオヒメグモ	1y♂(2002.10.5)
2 カグヤヒメグモ	1y♀(2002.10.5)

3	ギンメッキゴミグモ	1♀, 1y(2002.10.5)
4	コクサグモ	1♀(2002.10.5)
5	シマゴニグモ	1♀(2002.10.5)
6	ジョロウグモ	1y♂(2002.10.5)
7	ビジョオニグモ	1♀(2002.10.5)
8	ヒラタグモ	1y(2002.10.5)
	コモリグモ科	2y(2002.10.5)

神社(神社名不明・出屋敷池付近) 大和高田市野口

<樹・建>

管理が行き届いており, 樹もまばらなため, 日当たりはよい。

1	コクサグモ	1♀(2002.10.12)
2	ササグモ	1y(2002.10.12)
3	ジョロウグモ	1♀(2002.10.12)
4	チリグモ	1y(2002.10.12)
5	ネコハグモ	1y(2002.10.12)
6	ヒラタグモ	1y(2002.10.12)
7	マネキグモ	1y(2002.10.12)
	アリグモの一種	1y(2002.10.12)
	フクログモ科	1y(2002.10.12)
	アシナガグモ科	1y(2002.10.12)

各地で採集したクモ

吉田 真

最近, 友人や知人が相次いで亡くなり, 私は落ち込んでいる。今のところどこも悪いところはないけれども, 人間いつ死ぬか分からない。他の人に役立つかどうか分からないが, 持っているデータはできるだけ公表しておこうという気になった。あちこちで採集したクモのリストを示す。同定していただいた谷川明男さん, 加村隆英さん, 田中穂積さんに感謝する。

1995.5.27 滋賀県北比良リフト登り口

オオヒメグモ	y1
ユノハマサラグモ	♀1
オオシロカネグモ	y1
メガネドヨウグモ	♀1
チクニドヨウグモ	♂1, ♀1, y1
タニマノドヨウグモ	♂y1, y1

*Dolomedes* sp. y

2000.7.22 静岡県中川根町尾呂久保

オナガグモ y1  
ヒメグモ y3  
ハラナガヒシガタグモ ♀1  
センショウグモ ♀1  
ボカシミジングモ ♂1  
ホシミドリヒメグモ y1  
シロブチサラグモ ♀1  
ワキグロサツマノミダマシ y4  
カラスゴミグモ ♀2  
ヤミイロオニグモの一種 y1  
イシサワオニグモ y5  
アオオニグモ y1  
ギンメッキゴミグモ y1  
ジョロウグモ y4  
*Tetragnatha* sp. y3  
ヤハズフクログモ ♂1, y1  
トラフカニグモ y1

2000.7.23 静岡県中川根町不動滝

ヒメグモ y1  
オオヒメグモ ♀1  
オナガグモ y1  
コゲチャオニグモ y1  
オオクマヤミイロオニグモ y1  
トガリオニグモ y1  
ワキグロサツマノミダマシ y1  
ヤマジドヨウグモ y1  
チクニドヨウグモ ♂1, ♀1, y1  
タニマノドヨウグモ ♀1  
アシナガグモ ♂y1, y2  
ウロコアシナガグモ y1

2000.7.23 静岡県中川根町藤川

カタハリウズグモ y2  
ウズグモ ♀1  
オウギグモ y1

くものいと, No. 33, Mar. 2003

ヒメグモ	y1
ヤリグモ	y2
クスミサラグモ	y1
アシナガサラグモ	♂y1
ナンブコツブグモ	y1
ナルコグモ	1♂
ヨリメグモ	♀1, y1
イシサワオニグモ	y1
ワキグロサツマノミダマシ	y1
ヤマトカナエグモ	y1
ヨツデゴミグモ	y1
コシロカネグモ	♀1
スジアカハシリグモ	♀1
クラークコモリグモ	♀1
ワカバグモ	y4
ヒメカラスハエトリ?	♂2

2000.7.23 静岡県中川根町尾呂久保

ツリガネヒメグモ	♀1
カニミジングモ	♂y2
ツクネグモ	♀1
アシナガサラグモ	♀1
ムネグロサラグモ	♀1
オオクマヤミイロオニグモ	y1
ギンメッキゴミグモ	y1
オオシロカネグモ	♀1
ウロコアシナガグモ	y1
ワカバグモ	y1

2000.7.23 静岡県中川根町榛原橋

トゲグモ	♀2
クラークコモリグモ	♀1
<i>Arctosa</i> sp.	♂y1
<i>Dolomedes</i> sp.	y1

2000.8.20 京都市左京区大原野村町

アカイトリノフンダマシ	♀1
オオトリノフンダマシ	♀1
ササグモ	♀1, y1

ハナグモ ♀1

2000.9.9 滋賀県草津市野路東 立命館大学  
マダラヒメグモ ♂1

2000.10.12 滋賀県草津市野路東 立命館大学  
ネコハグモ ♂1

2001.5.20 大津市瀬田龍谷の森

カタハリウズグモ? y  
バラギヒメグモ ♀1, y1  
アシプトヒメグモ ♀1  
ヤリグモ ♂4, y1  
アシナガサラグモ y1  
ユノハマサラグモ ♀3  
ギンメッキゴミグモ ♀1  
ゴミグモ ♀1  
ハラビロミドリオニグモ ♀1  
ヤミイロオニグモ ♀1  
カラフトオニグモ ♀1  
ヤマシロオニグモ y4  
アシナガグモ ♀1  
コシロカネグモ ♀1, y7  
コマチグモ属 sp. y2  
アマギエビスグモ ♂2  
デーニツツハエトリ ♀1, y1  
ヤサアリグモ y1

2001.6.21 京都市左京区北白川バプテスト病院横  
オオシロカネグモ ♀2

2001.9.9 奈良市鹿野園町

ジグモ y1  
ウズグモ y2  
ネコハグモ y2, ♂y2  
ヒラタグモ y1  
クロガケジグモ y1  
カグヤヒメグモ ♀1  
オオヒメグモ ♀1



くものいと, No. 33, Mar. 2003

オオヒメグモ	♀1
ヒメグモ	♀1
イエオニグモ	♂1
ギンメッキゴミグモ	♀1, ♂1
ゴミグモ	y2
ナガコガネグモ	♀1, y1
アシナガグモ	♀1
コシロカネグモ	♀1
ジョロウグモ	♂1
オオシロカネグモ	♀2
コクサグモ	♂y1

2001.10.13 京都市左京区法然院

キシノウエトタテグモ	y2
シマゴミグモ	♀1
コガタコガネグモ	♀1

2002.3.31 京都府八幡市木津川河川敷

チュウガタシロカネグモ	y1
ヤマトフクログモ	♂1

2002.6.15 鹿児島県始良郡加治木町城

リュウキュウヒメグモ	♀1
カニミジグモ	♀1, y5
シロカネイソウロウグモ	♀1
ヤリグモ	♀1
センショウグモ	♂2, ♀1
ヤマシロオニグモ	♀1
ホシスジオニグモ	y1
ドヨウオニグモ	♀1
オオトリノフンダマシ	♀1
チュウガタコガネグモ	♀2
ヤマシロオニグモ	♀1, ♂1, y
コガネグモ属 sp.	y1
ワキグロサツマノミダマシ	y7
ジョロウグモ	y5
オオシロカネグモ	y1
コシロカネグモ	♀2
ウロコアシナガグモ	y4



- 8 クロマルイソウロウグモ 1y 吉田  
9 オオツリガネヒメグモ 1♀野嶋 1♀西川  
10 センショウグモ 1y 野嶋  
11 ムナグロヒメグモ 1♀池田  
アシナガグモ科  
12 ジョロウグモ (目撃)加村 1y 吉田  
コガネグモ科  
13 オニグモ 1y 吉田  
14 イエオニグモ 1♀船曳 2♀吉田  
タナグモ科  
15 クサグモ 1♂池田  
16 コクサグモ 1y西川  
ハグモ科  
17 ネコハグモ 1♀加村 1♂池田 1♂2y 吉田 1♂西川  
ガケジグモ科  
18 クロガケジグモ (目撃)加村 1y 吉田 (目撃)西川

●男山の林内, 石清水八幡宮境内周辺

2002年9月22日 曇り

京都府八幡市馬場山

標高:30~110m (男山山頂:142m)

<22科 62種>

ジグモ科

- 1 ジグモ 1y 赤松 (目撃)西川

トタテグモ科

- 2 キシノウエトタテグモ 1♀赤松 1♂2y西川

マシラグモ科

- 3 マシラグモの一種 3y西川

ユウレイグモ科

- 4 イエユウレイグモ 1♀赤松 1♀船曳

- 5 ユウレイグモ 1y 野嶋 1♀池田 1♀1y 赤松 1♀1♂清水 1y西川

- 6 シモングモ 1y西川

タマゴグモ科

- 7 ダニグモ 2♀西川 1♀加村

センショウグモ科

- 8 センショウグモ 1♀池田 1♀y 赤松

チリグモ科

- 9 ヒラタグモ 1♀y 赤松 1y 船曳 1♀清水 1y 吉田

ウズグモ科

- 10 マネキグモ 1y 野嶋  
11 オウギグモ 1♂野嶋 1♀池田 1♀船曳 2y 吉田  
12 カタハリウズグモ 1♀池田 1y 清水  
13 ウズグモ 1♀野嶋 1♀1y 赤松 1♀船曳 1♀1y 吉田

ヒメグモ科

- 14 オオヒメグモ 1♂池田 1♀1y 赤松 1♀船曳 1♀吉田 (目撃)西川  
15 スネグロオチバヒメグモ 3y西川  
16 ツリガネヒメグモ 2♀加村 1♀池田 2♀吉田  
17 カニミジグモ 1♀加村 1y 野嶋 1y 清水 3y西川  
18 スネグロオチバヒメグモ 2♂y 加村  
19 フタオイソウロウグモ 1y 野嶋  
20 オダカグモ 1♀赤松  
21 カグヤヒメグモ 1♀赤松  
22 オナガグモ 1y 野嶋  
23 カレハヒメグモ 1y 赤松  
24 ヤニミジグモ 1♀池田  
25 キベリミジグモ 1♀野嶋  
26 ヒメグモ 1♂野嶋 1♀y 赤松  
27 ムラクモヒシガタグモ 1♂y1y西川 1♀船曳  
ヒシガタグモの一種 1♂池田

ヨリメグモ科

- 28 ヨロイヒメグモ 4♀2♂西川

サラグモ科

- 29 アシナガサラグモ 1♀加村 1♀船曳  
30 アシヨレグモ 1y 野嶋 1♂1♀池田 1♀y 船曳  
31 アリマネグモ 1♂西川  
32 ユノハマサラグモ 1♀池田

アシナガグモ科

- 33 オオシロカネグモ 1♀赤松 1♀1y西川  
34 ジョロウグモ 1♂1♀y 赤松 1♀1♂清水 (目撃)西川

コガネグモ科

- 35 コガタコガネグモ 1♀船曳  
36 ハツリグモ 1♀池田 1♀y 赤松 1y 船曳 1♀y 清水  
37 ワキグロサツマノミダマシ 1♀船曳  
38 ゴミグモ 1y 赤松 1♀船曳  
39 シマゴミグモ 1♀加村 1♀船曳 1y 清水 1♀吉田 1♀西川  
40 ヨツデゴミグモ 1♀y 加村 1y 野嶋 1♂池田 1y 船曳 1y 清水  
41 サガオニグモ 1♂y 清水

- 42 ギンメツキゴミグモ 1♀池田 1♀1y赤松 1♀船曳 1y吉田  
43 ヤマゴミグモ 1y赤松  
44 カラフトオニグモ 1y西川  
コモリグモ科  
45 クラークコモリグモ 2♀y西川  
シボグモ科  
46 シボグモ 2y加村 1♀y清水 1♀y2y西川  
タナグモ科  
47 ヒメシモフリヤチグモ 1♀(9/25脱皮)4♂(10/2~18脱皮)西川  
48 コタナグモの一種 1♂y2y西川  
ウエムラグモ科  
49 イタチグモ 1♀4y加村  
50 コムラウラシマグモ 3♀y4♂y加村 1y野嶋 1♀池田  
51 オトヒメグモ 1♂加村  
フクログモ科  
52 イタチグモ 1♀1♀y1♂y11y西川  
53 オトヒメグモ 1♂西川  
54 コムラウラシマグモ 9♀y3♂y西川  
55 ウラシマグモの一種 1y西川  
アシダカグモ科  
56 コアシダカグモ 1♀池田 1♀赤松 6y西川  
エビグモ科  
57 キハダエビグモ 1♀y清水  
カニグモ科  
58 ニッポンオチバカニグモ 3♀1♂3y西川  
59 アズチグモ 1♀西川  
60 ヤミイロカニグモ 3y西川  
ハエトリグモ科  
61 アシプトハエトリ 1♀野嶋 2♀清水  
62 デーニッツハエトリ 1y野嶋 1♀赤松 2♀清水

本の中に見つけた蜘蛛, くも, クモ

船曳 和代

昨年7月失業した。当時はクモや虫の活動期で、毎日のように野外に出かけた。秋から冬にかけてはパソコンを学んだ。それも終わり正月を過ぎると、やる事がなくなった。いや、やることは一杯あるのだがやる気がおこらなくなった。それから3日にあらず図書館に通い、本を借りてきては読んだ。本はサスペンス、エッセイ、ルポルタージュと統一性がなく、何でも興味のあるものを時間をかけて選んだ。ここではそんな本の中に見つけたクモを紹介したい。

★「へんな虫はすごい虫—もう“虫けら”とは呼ばせない!」 安富和男 著

「密壺になるアリー生きた密の貯蔵庫・密壺アリ」とか「わざわざ冬の林に舞う蛾—フユシャクの生存戦略」など72のへんな虫すごい虫が集められている。

その中にクモも2種仲間入りしていた。ひとつは「母親を食べて育つくも」としてカバキコマチグモが、もう一つは「水中にドームをつくるクモ」としてミズグモが。さしずめこの2種は「へんなクモ・すごいクモ」の代表格らしい。

★「すごい虫のゆかいな戦略—サバイバルをかけた虫の生きざま」 安富和男 著

クモではないがクモの糸を利用するタイワンオオヒラタアブのことが紹介されていて大変興味深かった。

「クモの糸を命綱にするヒラタアブ—謎, そしてまた謎……」によれば、タイワンオオヒラタアブは、ホウライチクから吸汁するタケツノアブラムシを専門的に捕食する。捕食される側のタケツノアブラムシの1齢幼虫には、捕食者を攻撃するための兵隊がいる。兵隊は頭に2本の角を生やしており、強大な前足でヒラタアブの卵を抱きかかえ、この角で刺し殺す。タイワンオオヒラタアブはこの兵隊から卵を守るために、ホウライチクに卵を生まないうで、タケの間からまったクモの糸に卵を産み付ける。孵った幼虫はクモの糸をザイルにして、ときには数メートルも移動してアブラムシにたどり着く。すなわちクモの糸は卵を守るとともに、幼虫がアブラムシにたどりつくザイルとして使用される。

鳥のエナガが巣材としてくもの糸を使うことは知っていた。だが、タイワンオオヒラタアブの糸の利用は、これとはひと味もふた味も違うものだ。

★「虫と花の寓話」 串田孫一 著

春蘭、筍、守宮、軽鴨、ゴキブリなど、身近な花や虫、小動物と著者の交流が簡潔な文章でつづられている。この中にクモの話が二つあった。

一つは「飢えた地下生活者—地蜘蛛の巣」というものでジグモを取り上げたものだ。

著者の血を吸って太った藪蚊が墜落するように飛んでいった先にはジグモの巣があった。何が起ころうが絶対に見のがすまいと身構えている著者の目の前で、ジグモは袋を素早く駆けのぼり、蚊をおそい、弱るのを待って袋の中へ引きずり込み、地下へ運んでいく。

もう一つは「英語の擬態—蜘蛛と遊ぶ」で、ナガコガネグモの雄が描かれていた。

クモは網の中心にいて、左右8本の脚を2本ずつそろえている。そろえた脚の先は白く幅の広いかくれ帯へと繋がっていてX字型になっている。著者は枯葉を切って網につけたり、細い草の先を顔の正面に持っていったりしてクモと遊ぶ。クモはその都度飛びついてきたり、網を揺らすように激しく動かす。

秋の出来事として描かれているし、添えられているイラストもナガコガネグモのものだが、X字型のかくれ帯というのには、疑問が残った。

以下に著者の素晴らしい文を少し紹介したい。

「……軒先の蜘蛛の網も、見ると反射的に箒を持ち出して払う人がいるが、自分の仲間が何年もかけて築いた建造物を、一発の爆弾で壊してしまえる人間のことから、そんなことは朝飯前である。

雨上がりに日が射して、蜘蛛の網に宿った雫が、赤や紫や金に輝きながら消えていく光景を見たくないのだろうか。この貴い眺めは、造物主も計算外の美しさだったかもしれない。自分だけ小ざっぱりと生きて行こうとする人は、蜘蛛の巣を払ってしまったために、この宇宙的な感動を味わうことが出来なかった。」

#### ★「土と林の生きものたち」 全国学校ビオトープ・ネットワーク 編

ミミズ、アリ、チョウなど土と林で生活する生きものたち、16種のやさしい調査法が紹介されていて、クモは5番目に取り上げられている。

しかし、5cmを越す枠の中の写真は、ハエトリグモとコマチグモの所にジグモが、ジグモの所にはハエトリグモが入っていて、見た瞬間ギョツとしてしまった。文章の方も「毎日網を張り替える理由は、他の巣にちゃっかり居候して、巣にかかった獲物を横取りするクモ（イソウロウグモなど）からの防衛手段だとかんがえられています。」等の記述があり、頭の中でいくつもの？マークを点滅させながら読んだ。

またドイツ製の教材が紹介されていてこれには興味を持った。「クモの巣観察木わく」と「昆虫にやさしい捕集道具 Snapy」の二つである。特に横33cm、縦35cm、厚さ2cm、左上にクモが逃げられる避難場所が設けられているという木わくは、一度試してみたいと思っている。

#### ★「スパイダー・ワールド—賢者の塔」 コリン・ウイilson 著

本の裏表紙には内容が以下のように紹介されている。

「時は二十五世紀。人類の文明は失われ、心を読む＜意志の力＞を獲得した蜘蛛が支配する地球。人間たちはその下で、下僕または奴隷として暮らしている。砂漠で育った少年ナイアルは、ひとり、人類の自由を求めて闘いを始め……。＜人間の意識の在り様＞を問うC・Wの思想の集大成、代表作」

えっ、クモが支配する未来が来る、そんな突拍子もないことを考える人がいるなんて！でもクモ大好き人間としてはちょっぴり嬉しい気がして読み始めた。本は600ページに届く大作で、残念ながら私は3分の1くらいの所で投げ出してしまった。

コリン・ウイilsonはSF小説の「賢者の石」や「スペース・バンパイア」の著者であり、作品が映画化されたこともあって日本では知られた存在である。この作品も映画化され、日本でも昨年末上映されご覧になった方もあると思う。興味のある方は本のほうもどうぞ。

★「蜘蛛」 遠藤周作 著

三つの幽霊, 蜘蛛, 針など, 短い怪奇・恐怖小説21編からなっている。その中の1編「蜘蛛」がそのままこの本の表題になっている。

ここに登場する蜘蛛は“くすね蜘蛛”と呼ばれ, 人間の皮膚に卵を産みつけ, 卵からかえった幼虫は人間の皮膚の中で血を養分としながら成長する。足は灰色でながく, 南支那や台湾にいるが九州の山村でも時々見つかるらしい。

私は灰色で長い足, という特徴からユウレイグモを, 皮膚に卵を産みつけ, 幼虫は皮膚の中で血を養分としながら育つというところから, ニキビダニを想像しながら読んだ。

もう一つ「枯れた枝」にも蜘蛛が登場する。

ホステス梨枝は詩を書いている男から, ガラパガス島で採集してきたという, 唾を吐きかけたような灰色のものが先端についた枯れた枝をもらい, 持ち帰る。

その後梨枝の身の回りでは観葉植物が枯れ, カナリヤや十姉妹が次々と死んでいく。彼女自身も不眠に悩まされ顔色が悪くやせていく。

私と詩人がアパートに行くと, 枯れた枝の泡だった部分に変化している。これを見て詩人は, 毒蜘蛛が生まれたのだという。ガラパゴス島には昔からピキヤという毒蜘蛛がいて小動物の血を吸って生きてきた。7世紀はじめ頃の島の噴火で絶滅したと言われているが, 多分それではないかという。3人は部屋のあちこちを探すが見つからない。ホステスは気味悪がって引っ越してしまう。

後日学校で生物を勉強したという編集者に枯れた枝を見せると彼は笑い出す。

「これがガラパガス島の蜘蛛の卵ですって。冗談じゃない。これはカマキリの卵ですよ」

吉田哉さんが「日本産ヒメグモ科総説」を出版されました！

「日本産ヒメグモ科総説」吉田哉著, 日本蜘蛛学会発行。

ISBN4-9901449-8-8, A4判, 224ページ, 606図。

代金: 1冊 4,000円(個人購入は国内送料無料)。

郵便振替の口座番号: 02240-8-88122, 口座名称: 吉田哉。

上記郵便振替口座に本の代金を払い込みください。2冊以上の場合は代金を割り引きます。

吉田哉さんから, 「日本産ヒメグモ科総説」が送られてきた。すっきりした装丁, 文章や図の読みやすい配置。どれを取ってもセンスの良さを感じる。彼は昨年, 京都大学から博士(理学)の学位を授与されており, この総説は, 学位論文「日本産ヒメグモ科の分類学的研究」の一部をなすもの。A4版 224ページの大著である。

この本には, 所属や記録などに疑問がある種を除く日本産ヒメグモ科の 35属 120種が載せられており, このうち 35種は哉さんによって新種記載されたものである。日本産ヒメグモ科の総説が書かれたのは, もちろん初めてのこと。この総説を使えば, 日本のヒメグモ類の殆どを種名同定できるであろう。図や写真も多く, 同定能力の低い私のような者にとっても利用価値が高い。図鑑類と同じく, ぜひ手元において置きたい本である(吉田真記)。



関西クモ研究会 2002 年度例会の記録

2002 年 12 月 22 日 (日) に四天王寺高等学校 (大阪市天王寺区) で 2002 年度の例会が開催された。

役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。

出席者: 山野忠清 (会長), 吉田真 (編集), 船曳和代 (編集), 榎元智子 (編集), 加村隆英 (庶務), 牧野達也 (会計), 田中穂積 (会計監査)。

(1) 2003 年度の行事予定

採集会: 2003 年 6 月 1 日 (日) および 2003 年 9 月 21 日 (日), いずれも北摂方面を予定。

例会: 2003 年 12 月 21 日 (日), 場所は四天王寺高等学校を予定。

(2) 「くものいと」の編集

第 33 号を 2003 年 3 月中に発行の予定。

(3) 会計

① 2000 年度 (2001 年 3 月末日) までの会計報告及び 2001 年度の会計報告を「くものいと」第 33 号に掲載予定。

② 個人別の会費納入状況を「くものいと」第 33 号発送時に同封する予定。

③ 会費の値上げの件:

年間の収入 72,000 円 (1,000 円 × 会員 72 名) に対して, 支出は 90,000 円あまりであり, 単年度では赤字である。しかし, 過去からの繰越金があり, 現時点でただちに立ち行かなくなるわけではないので, 会費については今しばらく据え置くことにする。

(4) 2003・2004 年度の役員候補

2002 年度末日で現在の役員の任期が終了するので, 次期役員の候補を選んだ。

会長: 山野忠清, 編集: 吉田真・赤松史憲, 庶務及び会計: 加村隆英, 会計監査: 田中穂積, 顧問: 西川喜朗。

(5) 大阪自然史フェスティバル参加の件

2003 年 3 月 21 日 ~ 23 日に大阪市立自然史博物館で開催予定の「大阪自然史フェスティバル」に関西クモ研究会が出展することが提案され, 了承された。出展の具体的な内容については, 今後, 西川顧問が中心になって検討する。

例会

出席者: 赤松史憲, 池田和穂, 池田勇介, 大崎茂芳, 加村隆英, 座古禎三, 清水裕行, 田中穂積, 谷川明男, 徳本洋, 船曳和代, 牧野達也, 榎元智子, 山野忠清, 吉田真 (計 15 名)

講演発表

(1) 谷川明男: 沖縄島の話

- (2) 徳本洋: アシダカグモの国内の分布北限地域, 希薄分布地における記録の検討
- (3) 船曳和代: カラスゴミグモのこしき系の「折り返し」について
- (4) 清水裕行: ①資料の簡易製本について ②セアカゴケグモについての情報

#### 総会

役員会で審議した内容を紹介し, 了承を得た。

#### 近況報告

例会の折に書いていただいたものを紹介します。

##### 池田勇介

昆虫 9 種, クモ 3 種, ヤスデ, イモリ, サワガニ, 魚, 貝...毎日, 死なない程度に世話をしています。家の中はプラケースでいっぱいです。

##### 田中穂積

大学に存在し, とても恵まれた状況にあるにもかかわらず, 今回, 新学部に転属したため, 現在, その仕事になれるため, 動きまわっているところです。クモの仕事にあまり時間が取れず, あせっている状況です。

##### 谷川明男

コガネグモ科とアシナガグモ科の分類を専門にしています。だいたいのところはわかってきたのですが, たとえばワクドツキジグモやツシマトリノフンダマシのようなめずらしいクモの雄が不明のままです。どんなクモなのか興味がつきません。ぜひ, たくさんの人の目を生かして, その正体を明らかにできればいいなあと思っています。ご協力いただけると幸いです。

##### 徳本 洋

余命も残り少なく, いつ絶たれるかわからない年齢になりました。あれこれとクモ以外の生きものにも欲張って手を出していましたが, できるだけクモに絞ってゆこうと思っています。

##### 牧野達也

ようやく会計報告をまとめることができました。時間がかかりかかってしまいました。ようやく肩の荷がおりました。

##### 榎元智子

編集担当の任期が今年度で終了し, ホツとしています。あと 1 冊です。これからも原稿よろしくお願いします。赤松さん, 吉田先生, よろしくお願いします。ゆるゆる長一く続けましょう!

会計報告

牧野達也

関西クモ研究会会計報告 平成9年度～平成13年度

会計報告注意事項

平成9年度～平成12年度分は、会計委員等の都合により一括報告となる。また、平成9年度会計より西暦式(1.1～12.31)から、年号式(4.1～3.31)に変更となり、平成9年度会計は調整年となる為、平成9年1月1日から平成10年3月31日の期間となる。平成9年度～平成12年度は一括報告となる為、報告書の記載は次のとおりとなる。

- ・ 支出は各年度ごとに示す。
- ・ 収入は平成9年度～平成12年度までまとめて示す。
- ・ 収支報告は支出計と収入計の形で、収入報告に続けて記載する。
- ・ 平成9年度から、会費の事前預かりの分は当年度の会費の収入とはせず、会費預り分として記載。尚、会費預り分は当年度の会費収入としては扱わないが、運用金の一部として当年度の活動資金に当てる。但し、決算時には預り分の金額は必ず確保し、預り金を保護するものとする。
- ・ 平成13年度会計より会計監査を行うものとする。

平成9年度会計報告(H9.1.1～10.3.31) : 支出報告

機関誌経費

くものいと 21号	送 料	9500
くものいと 22号	印 刷 代	4320
	送 料	7020
	文 具 代	630

案内経費

採集会案内

H9年6月	印 刷 代	520
	送 料	2600
H10年3月	印 刷 代	520
	送 料	2600

例会案内

	印 刷 代	520
	送 料	2600

---

支 出 計 30830

平成10年度会計報告(H10.4.1~11.3.31) : 支出報告

機関誌経費

くものいと 23号	印刷代	7,000
	送料	7,560
くものいと 24号	印刷代	7,000
	送料	7,560
くものいと 25号	印刷代	12,600
	送料	7,840
再送付	送料	420

案内経費

採集会案内

H10年6月	印刷代	540
	送料	2,700
H11年3月	印刷代	560
	送料	2,800

例会案内

	印刷代	560
	送料	2,800

---

支出計 59,940

平成11年度会計報告(H11.4.1~12.3.31) : 支出報告

機関誌経費

くものいと 26号	印刷代	9,800
	送料	8,400
くものいと 27号	印刷代	20,000
	送料	12,190
	文具代	5,614
再送付	送料	420

案内経費

採集会案内

H11年9月	印刷代	600
	送料	3,000

例会案内

	印刷代	600
	送料	3,000

役員間連絡経費

	送料	480
--	----	-----

---

支出計 64,104

平成12年度会計報告(H12.4.1～13.3.31) : 支出報告

機関誌経費

くものいと 28号	印刷代	27,200
	送料	12,910
	文具代	5,015
くものいと 29号	印刷代	22,570
	送料	13,150
	文具代	6,715
再送付	送料	470

案内経費

採集会案内

H12年5月	印刷代	630
	送料	3,150
H12年9月	印刷代	690
	送料	3,450

例会案内

	印刷代	690
	送料	3,450

役員間連絡経費

	送料	1,270
	払込手数料	220

支出計 101,580

平成9年度～平成12年度間 収入及び収支報告

収入

平成8年度よりの繰越金	95,195
会費収入	190,000
寄付・図書販売	57,819

収入計 343,014

会費預り分(H13年以降分)

34,000

運用金合計

377,014

支出

平成9年度支出合計	30,830
平成10年度支出合計	59,940
平成11年度支出合計	64,104
平成12年度支出合計	101,580

支出計 256,454

運用収支

120,560

会費預り分確保金額 34,000

次年度繰越金 86,560

平成13年度会計報告(H13.4.1~14.3.31)

収入

前年度よりの繰越金		86,560
会費収入		
本年度会費本年払込分	10,000	
預り充当分	20,000	
滞納分会費	6,000	
	会費計	36,000
寄付・図書販売		0
	収入計	122,560

会費預り分

前年度よりの繰越(H14年以降)	14,000	
新規預り(H14年以降)	17,000	
	会費預り分計	31,000

運用金合計 153,560

支出

機関誌経費

くものいと 30号	印刷代	16,000
	送料	13,150
くものいと 31号	文具代	4,862
	印刷代	20,280
	送料	13,140
	文具代	4,205

案内経費

採集会案内		
H13年9月	印刷代	690
	送料	3,450
H13年	印刷代	0
	送料	5,600
例会案内	印刷代	680
	送料	3,400
	支出計	85,457

運用収支 68,103

会費預り分確保金額 31,000

次年度繰越金 37,103

平成13年度会計は会計監査によって平成14年度の例会時に監査されました。会計報告が非常に遅れたことへのお詫びをいたします。

## 藤井靖浩さんを悼む

吉田 真

12月15日に新海栄一さんから連絡を受けて、私は絶句した。14日に藤井靖浩さんが亡くなられたという知らせである。夏頃までメールのやり取りをしていたので、とても信じられない。17日のお葬式には講義2つを休講にして、何が何でも行くつもりだったが、どうしても出席しなければならない会議があつて、行くことができなかった。

そこで、年が明けて新宿で行われた分類学会連合のシンポの帰りに、お焼香をしに埼玉県日高市のご自宅に伺った。奥さんの話によると、彼は子供のときに肺炎を患ったことがあり、その後も肺のレントゲンで引っかかることがあつたという。昨年の春にも肺に翳があるというので精密検査をすすめられたのだそうだが、「風邪だろう」と放置していた。その後体調をこわして入院し、肺癌の末期と診断された。

本人は絶対に復帰するつもりで、「今の時点で最善の治療は何か？」など、かなり踏み込んだ話を医者とやっていたらしい。12月のはじめには一時帰宅し、年賀状も書いていた。「今年いっぱいを持つだろう」と医者が出ていたらしいが、亡くなる数日前に不整脈が出て、検査の最中に血管が破裂したらしい。入院して50日。あまりにもあつけない最後であつた。

藤井さんは蜘蛛学会の古い会員で、私とは大学院生のときからの30年以上の長い付き合いであつた。彼は東京教育大学(現つくば大学)、私は京都大学と、大学は異なるが年齢も学年も同じ。ともにクモの生態学を志しており、その当時クモの生態を調べている研究者は少なかったから、私たちはすぐに仲良くなった。頭が切れ、スマートで、若くして結婚した彼に対して、私は嫉妬に似た感情を持っていたかもしれない。

蜘蛛学会との関わりでは、彼は1981年から83年までActaの編集委員、88年から90年まで評議員、88年から92年までAtypusの編集委員を務めた。私も同じ時期に評議員を勤め、会則や諸規程の見直しなどの作業をいっしょにやって、「会員数の減少をいかにしてくい止めるか？」など、蜘蛛学会のあり方について種々議論をした覚えがある。

彼は家庭では、面倒見の良い父親であり、夫であつた。「亡くなってはじめて、あれもこれもびっくりするほど多くのことを夫がやってくれていたと、実感しています」とは、奥さんの弁である。次男が生まれ、やがて障害児であることが分かった時点から、「土・日は必ず家にいて次男の相手をする」と、彼は自分で決めた。「私が観るから、研究でも学会でも行ってきて」と奥さんは言っていたようだが、彼はガンとして自分の意志を貫いた。この頃から彼の足は、蜘蛛学会から少しづつ遠のいていった。

研究者としての彼は、完全主義者であつた。コモリグモ類の生態的特性に関する膨大なデータを集めていたが、書かれた論文の数は多くない(論文リスト参照)。ちよつとでも不完全なところがあると、放っておけずに新たなデータを取ろうとするタイプである。フィールドは埼玉の自宅の近くであり、彼の勤務地は東京だつたから、休日にしかデータを取ることができなかったはずである。それでも、1970年代と80年代には、彼はコモリグモ

の捕食行動や子グモの保護に関するいくつかの論文を書いた。

その後、論文がなかなか出なくなかったのは、大学の仕事が忙しくなり、家庭の事情も重なって、研究に充てる時間が少なくなったためであろう。たまに学会や東京蜘蛛談話会の例会などで顔を合わせると、忙しくてなかなか研究できないとこぼしていた。

しかし彼は、研究をあきらめたわけではなかった。1997年と1998年には、膨大なデータを分析したコモリグモ類の日周期と生息場所選択に関する論文を *Acta* に掲載した。2001年には、アメリカクモ学会誌にウツキコモリグモの性成熟後の脱皮に関する小論を掲載した。これが彼の最後の論文となった。藤井さんから研究のことで相談を受けていたTさんは、コモリグモの体温を測ったものがたぶんほぼ完成原稿になっているのではないかとっておられた。そこで私は、「もしその原稿が出てきたら私まで送って下さい。*Acta* に掲載できるかも知れませんので。」と、奥さんに頼んでおいた。出てくればいいのだが。

しかし、私が彼のためにやってあげられるのはこれまでである。彼から最後にもらったメール(2002年9月2日)で、彼は以下のように書いた:「アシナガグモの生活史についての御高著の別刷りが届きました。(中略)年に数世代繰り返すことが水田などに特有な「環境の不安定性」と関係するのではないかという推測は、私がコモリグモ類で始めた野外調査のテーマでしたので、いま準備している論文でも主張したいテーマの1つです。ぜひ引用したいと思っています。」

しかし彼は、生活史の論文を仕上げることができなかった。病院で彼は、「悔しい、悔しい!」と言っていたという。自分の中で研究への想いが再燃し、これからだと思っていた矢先に病で倒れたのだ。どんなにか悔しかったであろう。「親父は最後まで、(博士の)学位が本当に取りたかったみたいですよ」と、車で送ってくれた彼の長男が言った。私も学位がなかなか取れなくて苦しんだから、その気持ちもよく分かる。奥さんから、彼が出すはずだった私への年賀状を頂いた。「ガンで倒れたが、何とかして復帰するつもりだ」と、書いてあった。悔しくて、悔しくて、涙が止まらない。

### 藤井さんの論文リスト

- 藤井靖浩. 1972. コクサグモにおけるエネルギー利用効率に関する研究. *Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ.* (1): 1-17.
- Fujii, Y. 1974. Hunting behaviour of the wolf spider, *Pardosa T-insignata* (Boes. Et Str.). *Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ.* (3): 135-148.
- Fujii, Y. 1976. Pulli-carrying behaviour in wolf spiders (Lycosidae, Araneae). *Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ.* (5): 143-151.
- Fujii, Y. 1978. Examinations of the maternal care of cocoon in *Pardosa astrigera* L. Koch (Araneae, Lycosidae). *Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ.* (7): 221-230.
- Fujii, Y. 1980. Analytical study of maternal behaviour in *Pardosa astrigera* L. Koch (Araneae, Lycosidae). *Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ.* (9): 233-245.
- Fujii, Y. 1983. Four *Arctosa* lycosids lacking the abdominal knobbed hairs and their



くものいと, No. 33, Mar. 2003

- pulli's post-emergent behaviour (Araneae, Lycosidae). *Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ.* (12): 177-188.
- Fujii, Y. 1997. Ecological studies on wolf spiders (Araneae: Lycosidae) in a northwest area of Kant plain, central Japan: Diel activity and habitat preference observed by pitfall trapping. *Acta arachnol.*, 46(1): 5-18.
- Fujii, Y. 1998. Ecological studies on wolf spiders (Araneae: Lycosidae) in a northwest area of Kant plain, central Japan: Habitat preference observed by hand-sorting. *Acta arachnol.*, 47(1): 7-19.
- Fujii, Y. 2001. Post-maturation molt found in a wolf spider, *Pardosa astrigera* (Araneae, Lycosidae). *J. Arachnol.* 29: 263-266.

---

### お詫びと訂正

---

くものいと 32 号に以下の誤りがありました。お詫びして訂正します。

6 ページ: *Atyous* → *Atypus*

14 ページ: [大阪府藤井寺可津堂] → [大阪府藤井寺市津堂]

46 ページ: 図1の「Levi (1995)を改変」を削除する

47 ページ: 図2の説明の最後に「Levi (1995)を改変」を入れる

56 ページ: 参考文献の, ウズグモのクモの網と補食行動 → 捕食行動

---

## 編集後記

先週大きく体調を崩した。今週はその原因を調べるための検査に明け暮れた。幸い悪いところはないようだが、また何時症状が出るかと思うと不安である。そして自分なりに原因を考え、寒い時期で家に閉じこもりがちだった生活を反省し、一日に何時間か歩いている。さて、今回で無事編集メンバーから外れることになった。編集にたずさわった前と後では「くものいと」をはじめとする会誌を見る目が変わってきた。作り手の苦勞が分かったからである。今後は良き書き手として出来るだけ協力して行けたらと思っている。(船曳)

昨年秋から「貧乏ヒマなし」に拍車がかかり、『くものいと』の編集がちょっと負担になってきていました。そこで私はしばしお休みをいただくことにいたしました。この号も吉田先生に任せきりで本当に申し訳ないです。またいつの日か、カムバックしたいと思っています。これからは吉田先生と赤松くんのお二人が中心となって編集を引き受けてくださいます。みなさんご協力ください。(柘元)

やっとのことで、33号を年度内に印刷することができた。船曳さんと柘元さんが抜けるのが寂しいけれども、別れもまた人生？次は赤松君とのでこぼこコンビでやっていきます。しかし、僕も赤松君もアバウトだから、飛んでもないミスが多発する可能性が高い。皆さん、覚悟して下さい。(吉田)

<関西クモ研究会>会長 山野忠清

編集 吉田 真

赤松史憲

庶務 加村隆英

会計 加村隆英

会計監査 田中穂積

顧問 西川喜朗

---

くものいと 33号 発行年月日 2003年3月27日

発行者 関西クモ研究会 (代表 山野忠清)

住所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学 生物学研究室内

TEL: 0726-41-9550 (加村研)

---